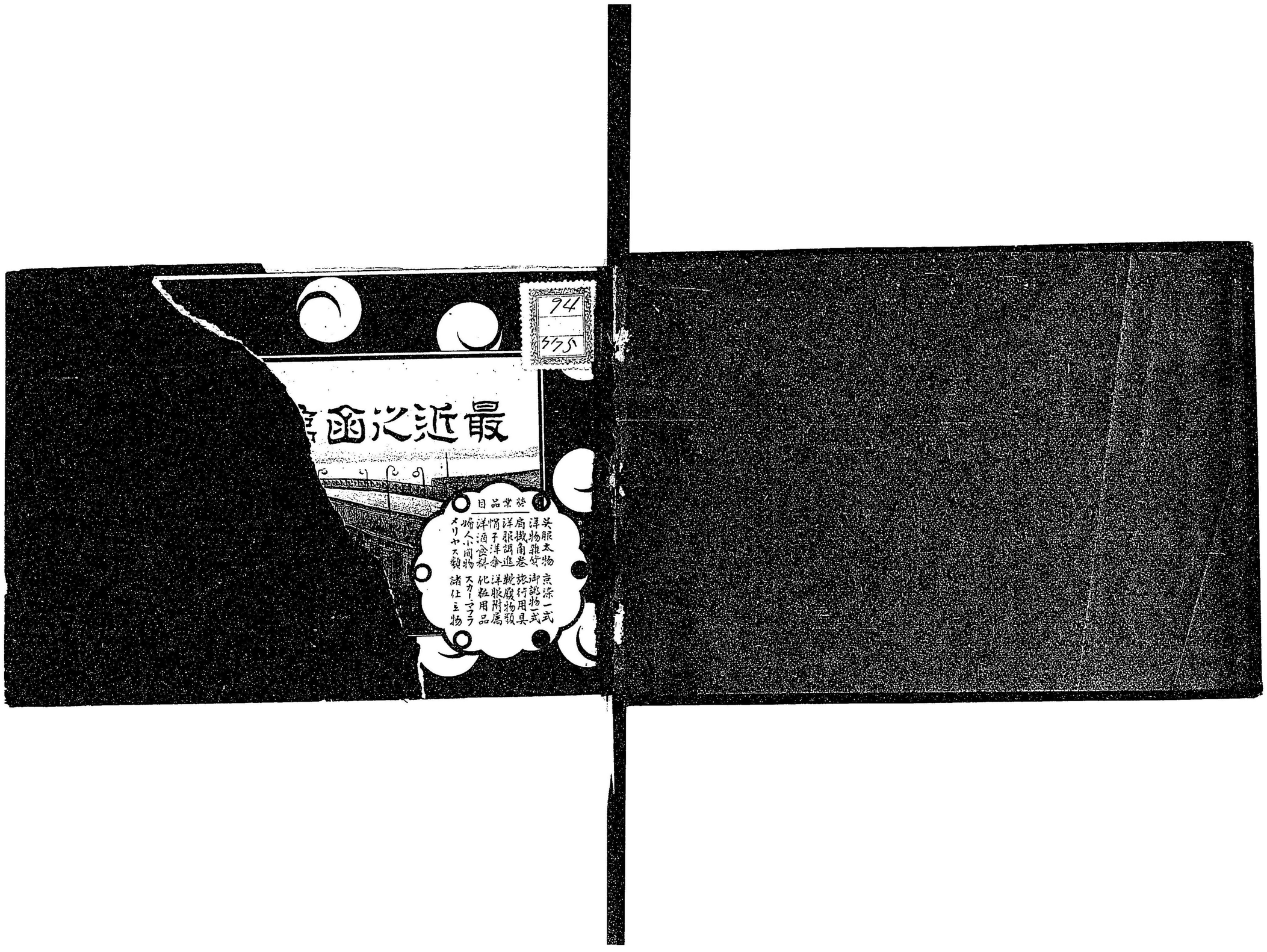
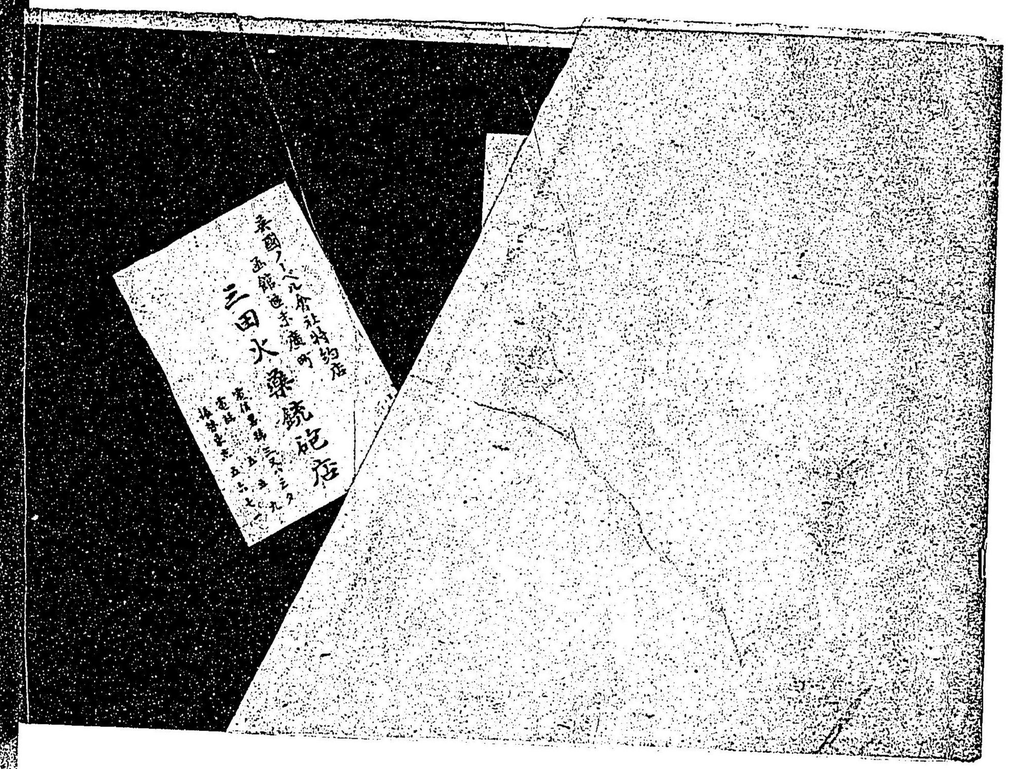

94
575
最近之函
營業品目
呉服太物
洋物雜貨
肩掛角巻
洋服調進
帽子洋傘
洋酒食料
婦人小間物
メリヤス類
京染一式
御誂物一式
旅行用具
靴履物類
洋服附属
化粧用品
スカーマフラ
諸仕立物


三田火藥銃砲店

序

函館港の進歩は一日と雖も停止する所無し、戸口の増加、經済の膨脹は所謂日に就り月に將むの如し。所以にして舊態を改め新觀を呈し、明治四十五年の函館は明治四十四年の函館にあらさるなり本書「最近の函館」と題す。最近の意義は眼前に新しきを云ふを以て即ち昨日は今日の最近なれども明日に至らば一昨日となるべし、明年は今年の最近なれども明年に至らば一昨年となるべし。歴史の慣用語たる近世史とは、徳川氏の創政より大政奉還迄を劃し、最近世史としては王政維新より今日迄を指すべし、最近の意義此の如しとすれば、本書の最近とは如何なる底の意義を有す可きやの知り難きも、本年より明治四十四年の明治四十三年よりも最近、最新なるは疑ひを容れす、是れ本書が題して最近といへる所ならんか。予は本書に據りて實に最近の函館を紹介せられたることを喜ぶ。

惟ふに本書の効用は、商工各方面に於ける代表的實業家の網羅されたるに在るべし、…附するに統計記事を以てせるは著者の要…るを見る、蓋し本書の爲め益する者、獨り、當業者のみにあらざらん

明治四十五年四月十日

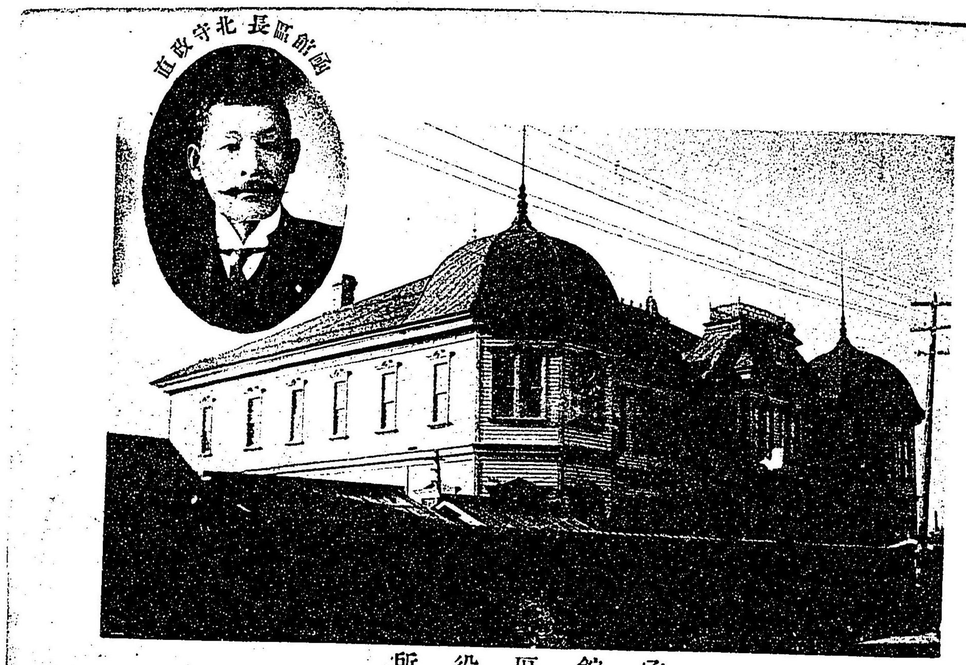
函館區長勳六等　北守政直

自序

函館の時代趨勢實狀を編纂して紹介せる類本は既に業に數種を數ふべし、然れども精粗一ならず、加ふるに我函館の最近に於ける商工業の發展は方に著しきものあり、爾來各種幾多の事業經營に於て新規の施設を劃し或は既業上に改善整理を加へられたるもの決して尠しとせざるなり。

乃ち戸口の增殖に伴ふ經濟、財政の膨脹を甞めとし、出入船舶の輻輳と共に集散貨物の增加を見るは蓋し自然の數なり、而して築港施設、棧橋架設等港灣設備の漸く其の實を現はし、海陸運輸交通連絡の利便を策したる如きは尤も其の著しきものにして、公益上寔に慶ぶべき事象ありとす。

想ふに時運の遷移は片時も停止す所あらず、旺殷の進歩は其の一面に於て退歩を意味す、陽に駸乎として昂上發達の大勢を示すものあるが如しと雖とも、陰に或は退歩する無きを保すべからず、豈油斷すべき時ならんや、願ふは日進の大勢に連れ進んで當業の振興發達を期せんと圖る、固より遽すべき精新の參考資料なかるべからず、本編は則ち…たらんが爲め各種幾多の商工業者を網羅し精覈調査を遂げ…更に附するに統計記事を以てし、唯管當業者の侶伴たらん事を期せり、幸に當業者の之に據りて若し多少なりとも事業の施設



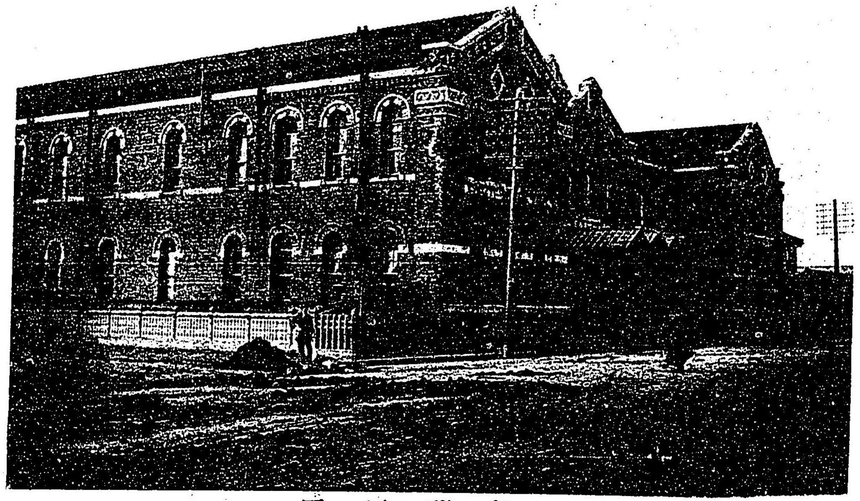
函館區役所

經營上に裨補する所あるを得ば、編者の意や仍ち竭きんなり。

○本編を著はさんとするに際し、函館區長北守政直氏は其の題字の揮毫を快諾せらること同時に懇篤なる序文を寄せられたるは、編者の欣喜に堪へざる所あり、今爰に本編の成るに、迨び特に附記し謹んで謝意を表す。

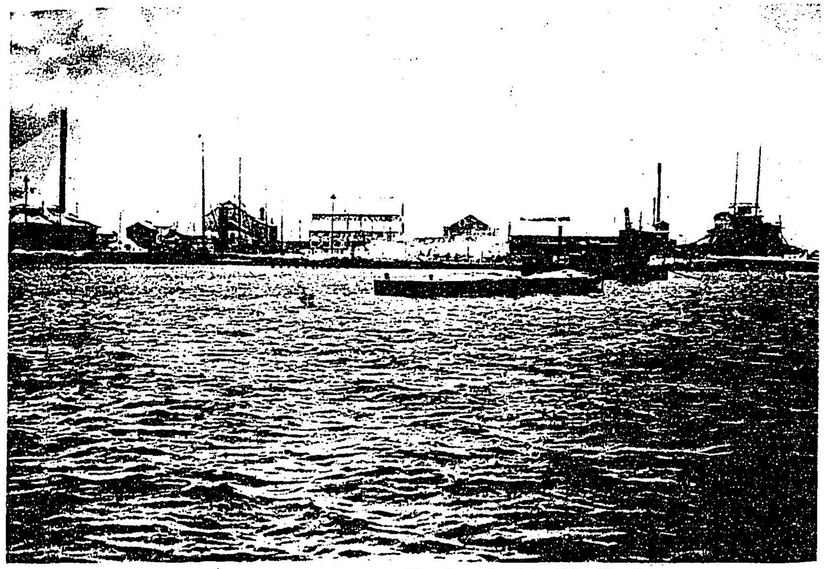
明治四十五年四月中浣

編者誌す



函館郵便局

公會堂



函館船渠株式會社　（電話三一四番）

鐵道院船車連絡棧橋

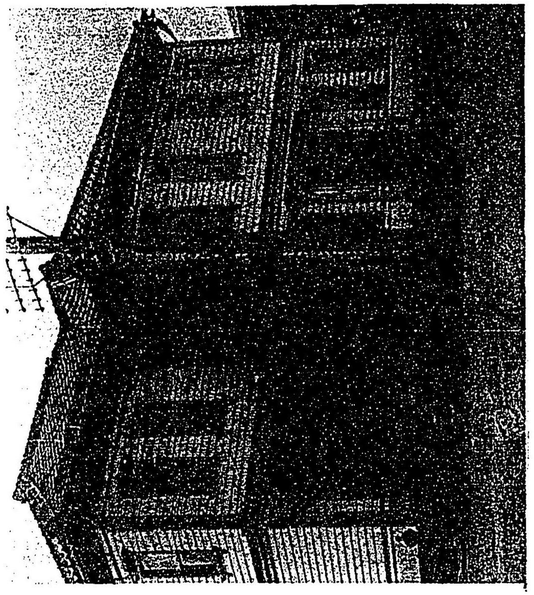
㊐ 今井呉服洋物店

函館區末廣町　（電話 十三番 三百〇七番）

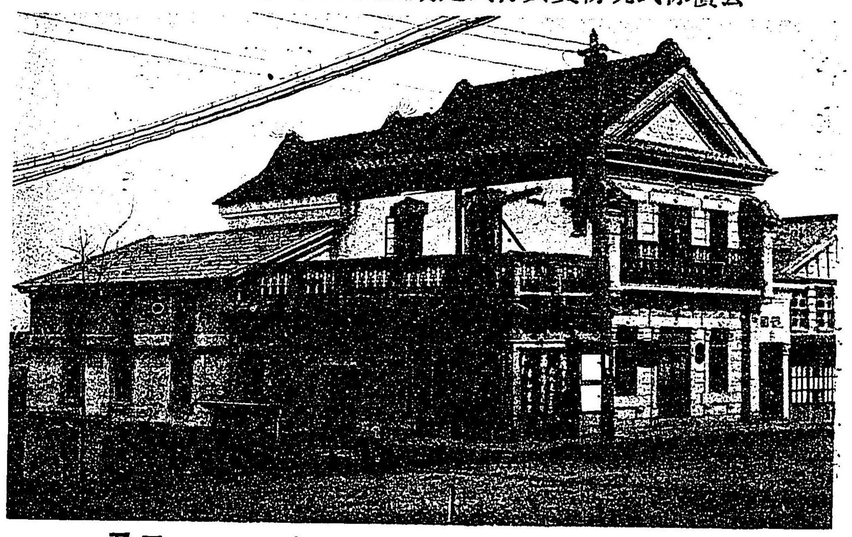
帝國生命保險株式會社

函館支店

函館區魚市通町三十二番地

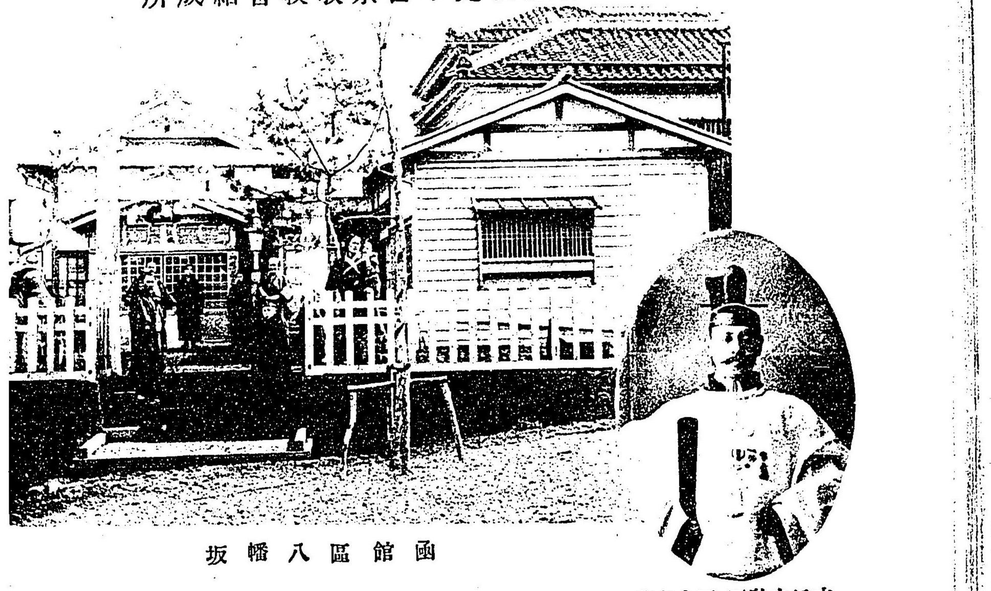


業託信立仲融金次取買賣期定式株買賣物現式株債公



番五三一五二 話電 郎次常野佐 店式株屋善信 印

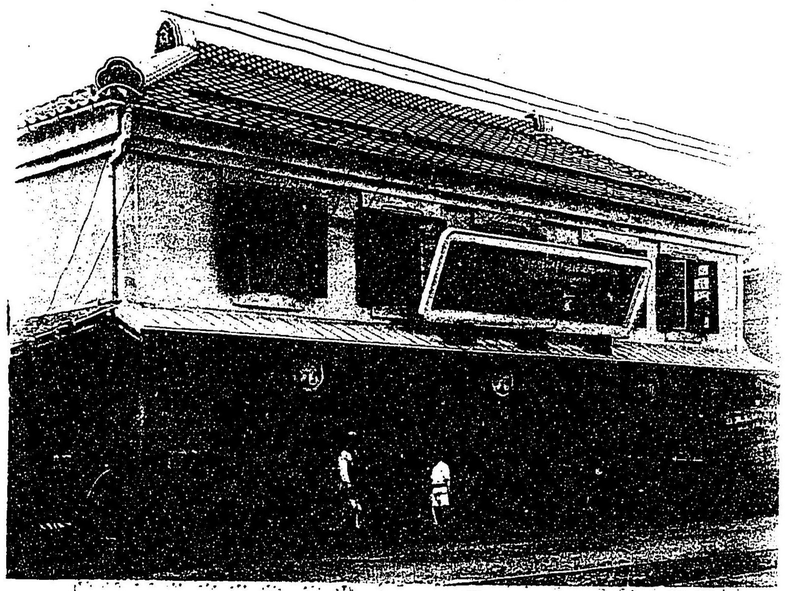
所成結會教敬崇宮本見伏道神



館區八幡坂

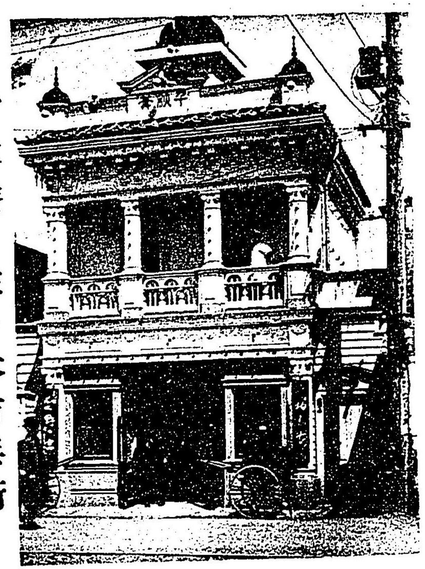
主任少教正 三上屯藏

和洋小間物卸商



函館區末廣町九十四番地 (九)加藤文五郎商店 電話四參六番

千秋庵 佐々木吉兵衛

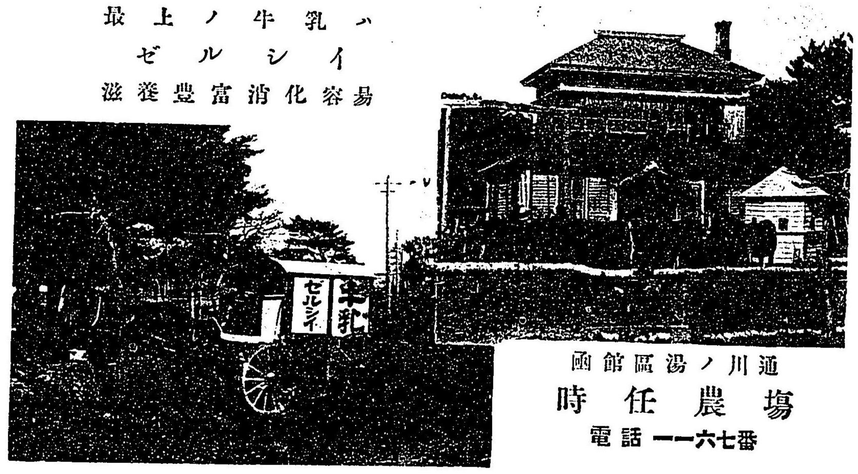


函館區末廣町二十四番地
(電話五五番 一參五一番)
蓬萊町分店 電話九七番

小樽 千秋庵

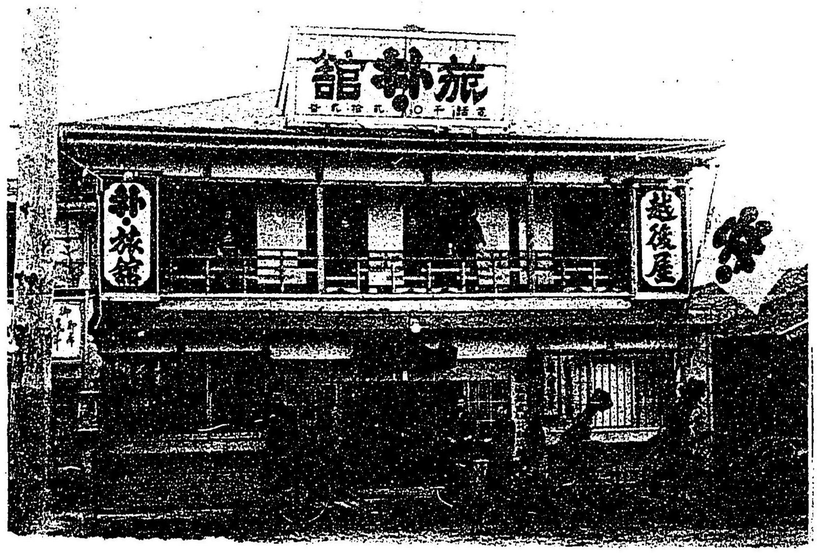
小樽區色内町一六番地
電話一二三三番

最上ノ牛乳
イシルゼ
滋養豊富消化容易



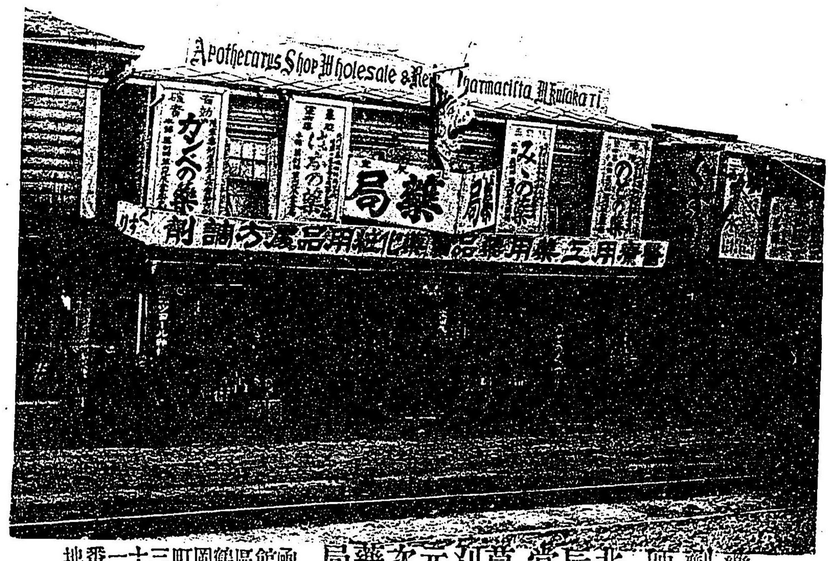
函館區湯ノ川通
時任農場
電話一一六七番

越後屋旅館



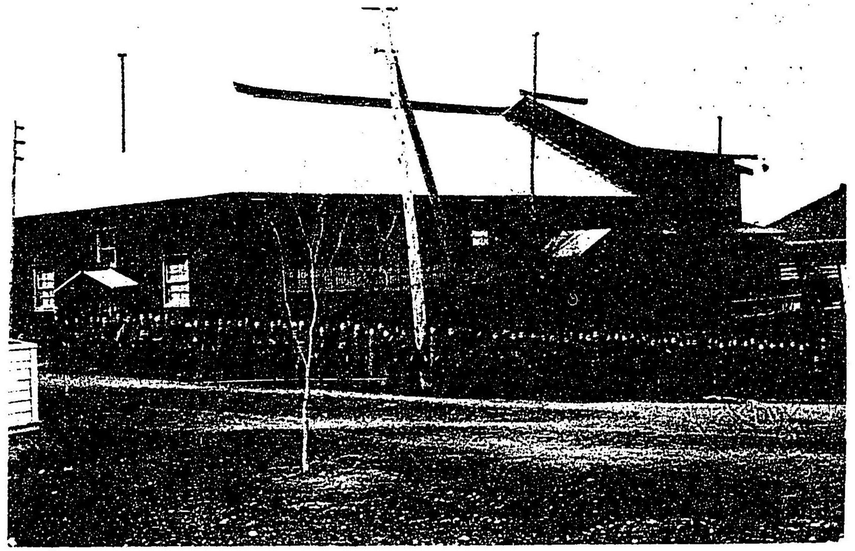
函館區停車場前 店主 荻原春 電話千〇二二番

耳鼻咽喉藥製劑始祖



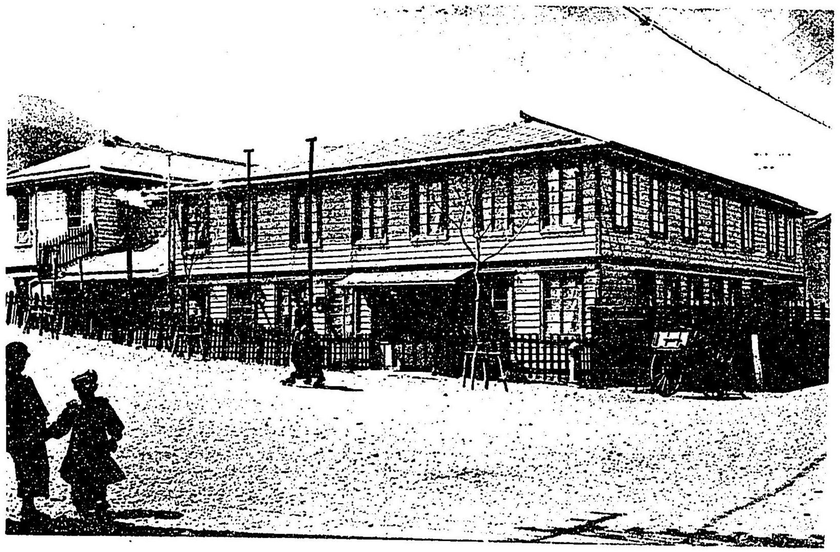
函館區鶴岡町三十一番地　藥劑師　北辰堂草刈元次藥局

函館女子裁縫館



函館區元町（三四）三二番地　館主　高桑九平

産科婦人科藤野病院

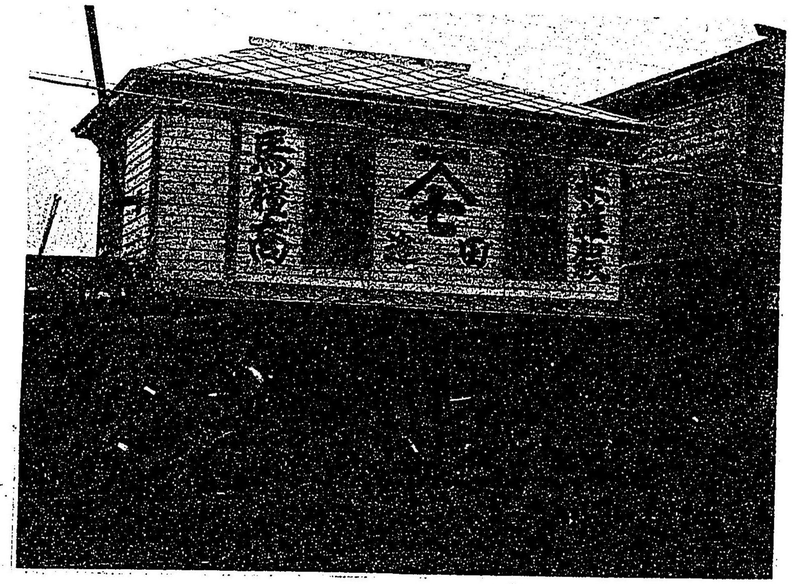


函館區會所町　電話七三一番

波島外科病院

函館區蓬萊町　電話五六九番

米雜穀牛馬養鷄飼糧問屋

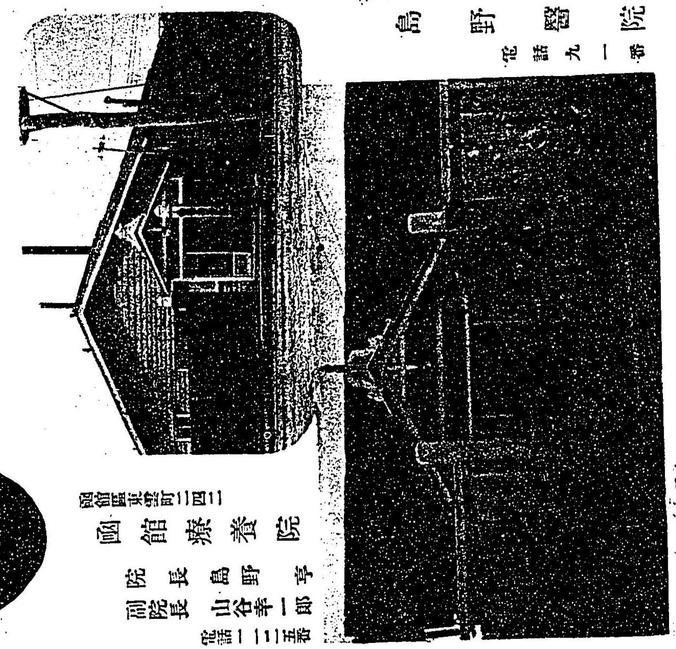


函館區東雲町 田邊芳太郎商店 電話九九四番

函館區弁天町

島野醫院

電話九一番



函館區末廣町一四一

函館療養院

院長 島野 亨

副院長 山谷幸一郎

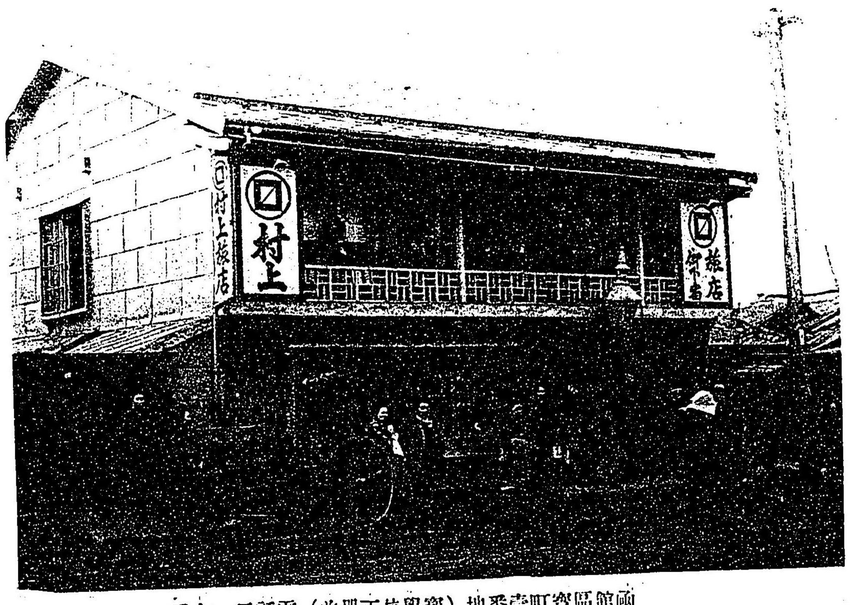
電話一一三番

清酒醬油鏘詰味噌問屋

電話百〇六番　　函館區末廣町

林豊三郎商店

㊂村上旅館



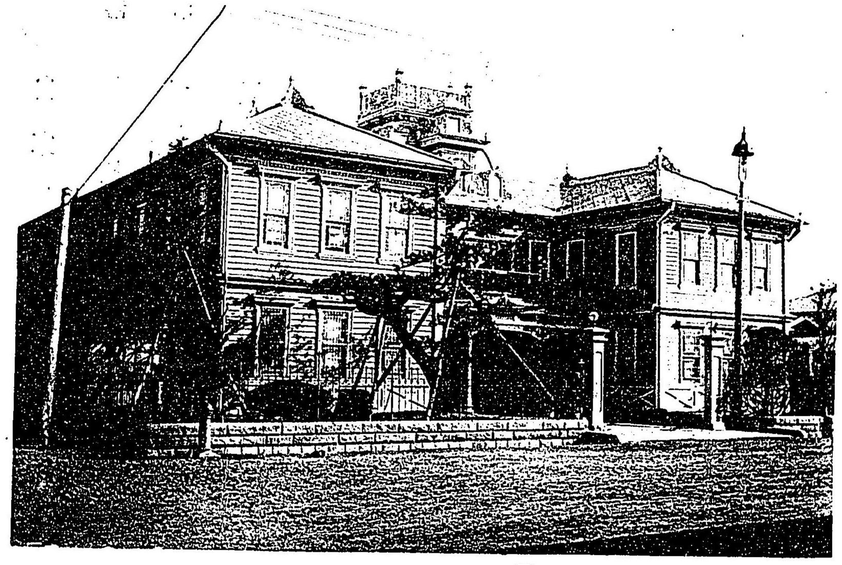
函館區寶町壹番地（寶學校正門前）電話五一七番

函館區　村山寫眞舘　蓬萊町馬車通

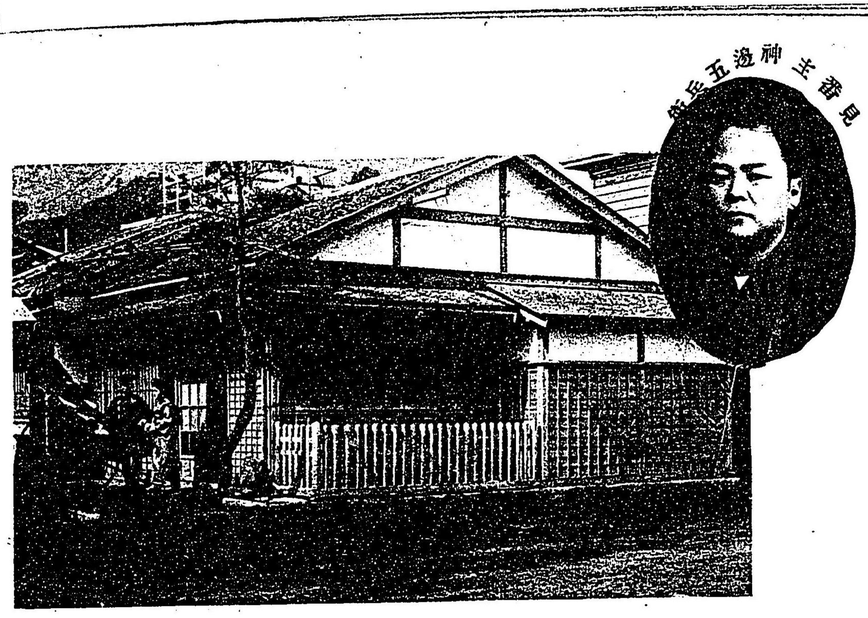
諸官廳御用西洋家具商

合資會社㋮いすや商店

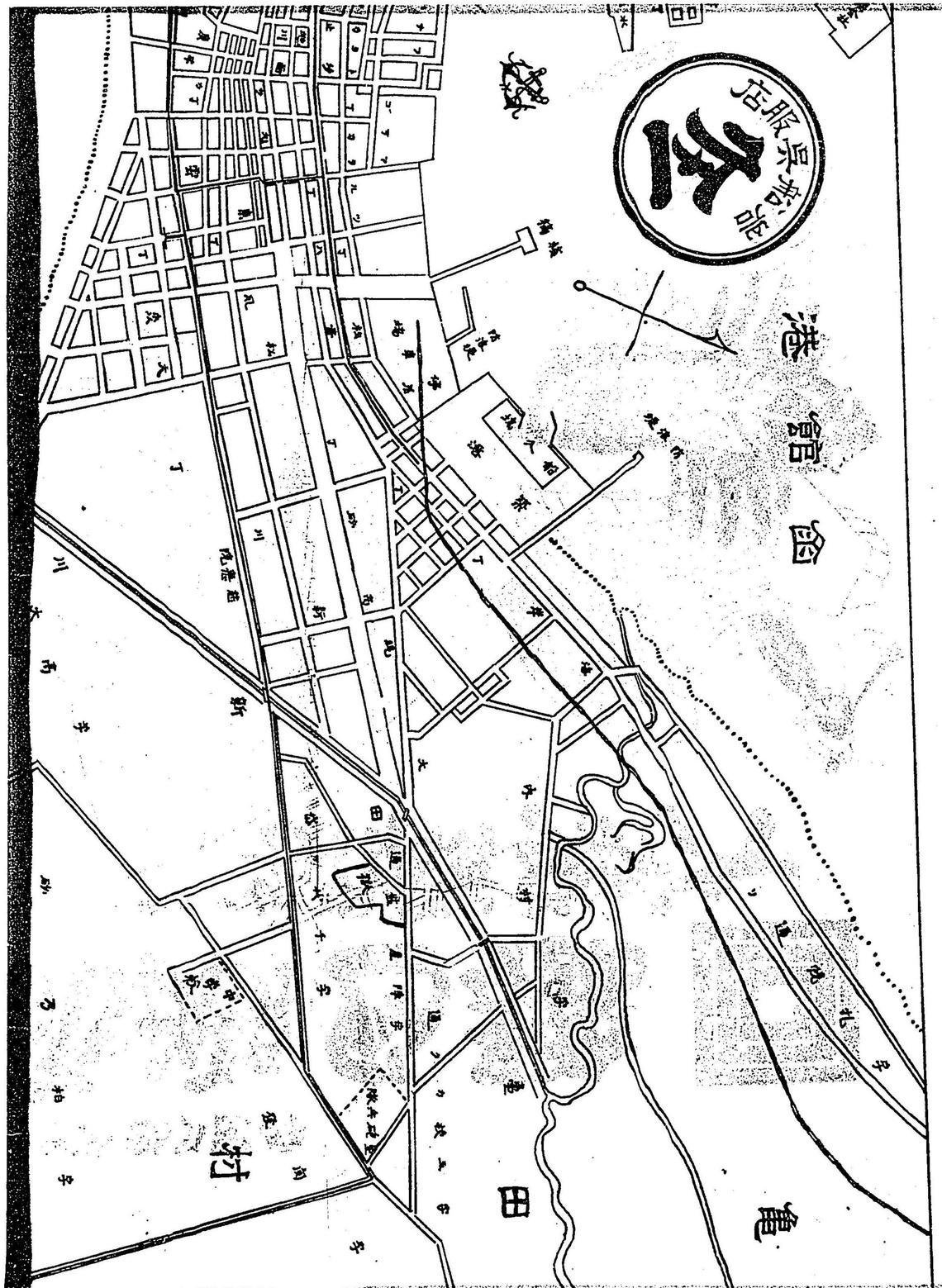
函館區惠比須町五十一番地　電話八九五番



函館遊廓　山　丸山樓　電話十八番



函館區相生町六二番地　町　現　番　電話　二一六番



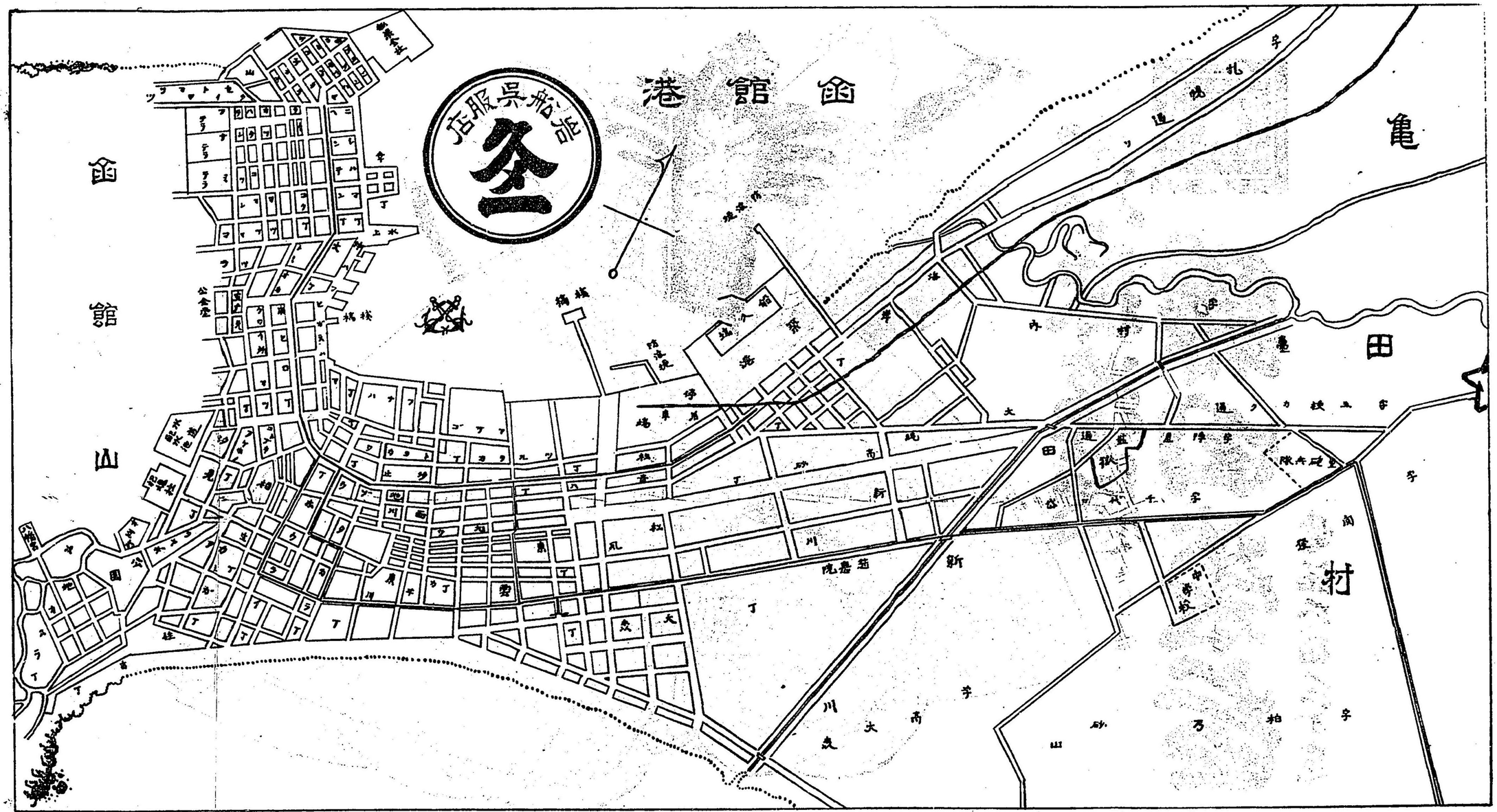
自家農園産

◎落葉松苗
◎ポプラ苗
◎木炭製造業

販賣

茅部郡森村大字宿野邊村

阪東瀬漲

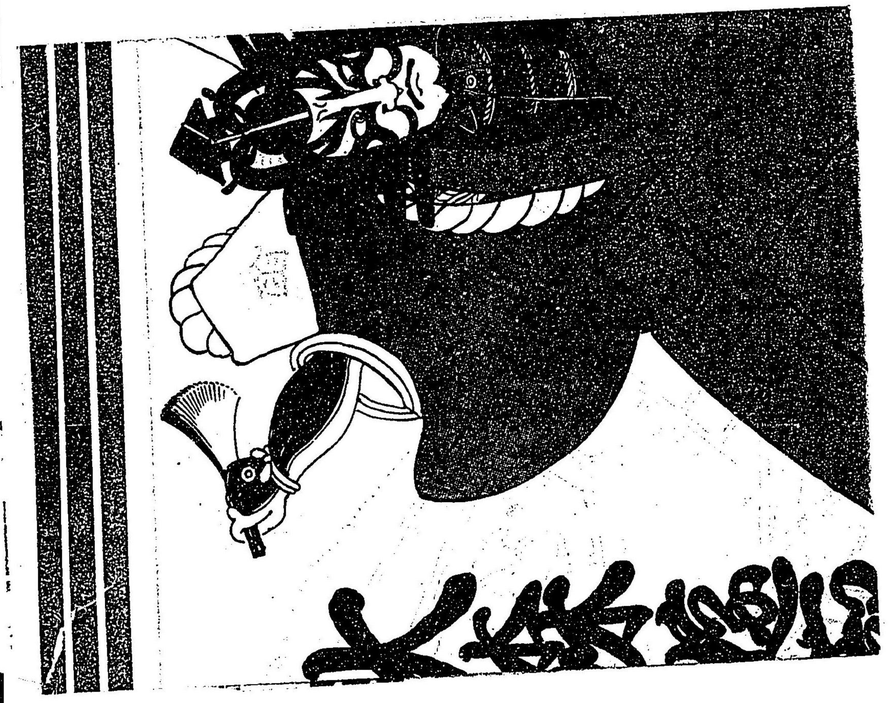


明治四十五年四月二十二日函館要塞司令部許可

大森鑑廓
鎌田榮吉
電話二百八十四番
蓬萊町森支部石印

本書目次

函館市街全圖
題字
序文
口繪
◉區役所ト區長 ◉公會堂 ◉函館區長北守政直
◉鐵道院棧橋其他數種 ◉函館區長北守政直
地理
位置及地勢
市街
氣候
一氣溫 一
二霜期 二
三雪期 三
四降水量
略史
港灣
戸數及人口
函館市街宅地貸貸價格
內外國貿易噸數總計表
內外國船舶最近三ヶ年對照表
內外國出入船舶最近三ヶ年對照表
函館區選出衆議院議員
函館區選出道會議員
官衙



區政
警察機關
一警察署 一五
二消防組 一六
教育機關
一官廳立諸學校 一六
二公私立小學校及幼稚園 一八
三其他各種學校 一二六
四圖書館 三四
宗教機關
一神社 三七
二佛教 三四
三基督教 三四
四神道各教會 三四
救濟機關
衛生機關
一衛生組合 三四
二病院 三四
三醫師及齒科醫 三四
四藥劑師 三四
五產婆及看護婦 三四
六函館藥業組合 三四
七軍醫分團函館研究會 三四
八函館海港檢疫所 三四
九火葬場 三四
十墓地 三四
商業機關
一商業會議所 四三
二商工業組合 四三
三銀行 四三
四株式會社 四三
五合資會社 四三
六合名會社 四三
七營業倉庫 四三
八保險 四三
九工場 四三
十商工人名錄（編纂ノ都合ニ依リ卷尾ニ附ス） 五五
交通機關
一鐵道 五九
二連絡棧橋 五九
三馬車鐵道 五九
四郵便電信電話 六〇
五區町村里程 六〇
六內國諸港里程 六〇
七外國要港里程 六〇
八旅人宿 六〇
九區內ノ道路 六〇
新聞紙
娛樂機關
一函館公園 六〇
二水產陳列場 六〇

三湯川温泉
四大沼公園
五大森濱海水浴場
六遊　廓
七劇　場
八寄　席
九藝妓見番
十函館料理屋組合

最近之函館

地理　位置及地勢

函館は東經百四十度四十四分北緯四十一度四十六分に位し北海道の南部にありて津輕海峽に斗出し東南西の三面は海に瀕し北は五稜廓より西方港内に畫する線及び南東外海に畫する線を以て龜田郡龜田村に接す地形陸馬に似て中部は縊れたる砂洲より成り南部は函館山蟠踞して半嶋をなし北部は平坦にして龜田平原に接續す東西二里十四町二十一間南北一里二十六町面積五百六十三萬四千五百六十七坪なり函館の古名は蝦夷語にてウスケシと稱す舊記には宇須岸又は臼岸等の字を用ふウスケシはウシヨロケシの轉化したるものにして港内の端なと云ふ義なり河野政通此地に館を築くに及び其形箱に似たるを以て遂に箱館と稱す明治二年箱館の字を改めて函館となす函館山は海中に隆起せる孤山にして北々西より南々東に亘りて稍々長し其狀牛の横たはるに似たるを以て又臥牛山の稱あり其最高峰を御殿山と云ふ其他藥師山立侍峰等あり明治三十年全山陸軍要塞砲兵隊の所轄となり爾後人民の登山を禁じ砲臺を築きたるため山巓の形狀は稍々變化せり大字龜田村は區の北部にして其中央は千代ケ岱の臺地あるの外は皆平坦なり龜田の原名は蝦夷語にてシコツと云ひ大窪地又は廣大なる地面の義なり蓋し昔時龜田の部落ありし地は今の大字龜田村

字村内の處なるも龜田村又は龜田郷と云へるは其四近廣き地域を包括したるものなり然るに其後戸口隨所に增殖し各々分裂して獨立の村落となるに至り終に其地域を縮少して函館及び上湯の川村鍛冶村神山村赤川村石川村有川村の間に介在する區分の名となり明治三十二年函館に區制を實施せらるゝ際復同村の南部を裂き之に編入して函館區大字龜田村と稱し北部は依然龜田郡龜田村の名を存せしが卅五年此龜田村及び鍛冶村神山村桔梗村赤川村石川村を合せて龜田村となし一級町村制を施行し元の龜田村を以て新らしき龜田村の大字となしたり

○市街

市街は平坦なる地頸部並に海岸より函館山の麓傾斜地に連り現今五十四箇町一箇村あり今其町名を列記せんに

仲濱町　西濱町　幸町
大町　辨天町　新濱町
臺場町　仲町　帆影町
小船町　鱸澗町　山脊泊町
船見町　臺町　駒止町
天神町　旅籠町　大黑町
鍛冶町　富岡町　元町
會所町　壽町　曙町
汐見町　青柳町　谷地頭町
住吉町　春日町　相生町
惠比須町　末廣町　東濱町
船場町　豊川町　汐止町
地藏町　鶴岡町　眞砂町
音羽町　高砂町　若松町
海岸町　大繩町　新川町
松風町　東雲町　大森町
旭町　榮町　東川町
西川町　寶町　蓬萊町
龜田村

函館山麓の市街坂多し函館支廳の前なるを基坂と云ひ昔時御殿坂と稱す之れより北西に東坂彌生坂常盤坂姿見坂幸坂千歳坂船見坂魚見坂順次並列す基坂より南東に日和坂八幡坂大三坂綠坂南部坂谷地坂蝌坂春日坂と順次並列す

○氣候

函館は其地海中に斗出するが故に海上氣象の影響を受くること甚だしきは勿論なるが尙ほ仔細に觀察すれば北東に渡島山脈あり北西に千軒山脈あり南方は津輕海峽を隔てゝ陸奥の山脈を望み四圍概ね遠山を繞らすを以て氣流の太平洋より來るものも日本海より來るものも共に多くは此等の山脈を經過せざるを得ず而して其氣流は此等の山脈を越ゆる際冷却して其含有する所の水蒸氣の幾分を雨雪となし降下せしめ然る後函館に入るを以て此地の空氣は之に準じて乾燥しつゝあるなり

(一)氣溫

函館の氣溫は函館測候所の累年平均に據れば全年攝氏八度三分華氏四十六度九分にして青森より低きこと僅に八分札幌より高きこと一度六分なり月を以て言へば一月は最も寒くして平均氷點三度二分華氏六度廿二分を示し二月も亦氷點以下にあり四月に至り溫度急昇し樹木萌芽し五月上旬には梅櫻桃李妍を競ひ麗を爭ふ八月には最も暖かくして平均廿一度二分華氏

七十三度二分に遠し中旬に至りて極まる夫より次第に降下し十月上旬冷氣頓に加り霜葉紅を染め十一月に至れば萬樹落葉して極月肅條の觀を呈す

(二)霜期

霜は其初日平年十月八日にして札幌に比すれば遲きこと六旦其終日は翌年五月十三日にして札幌に比すれば早きこと五日なり

(三)雪期

雪の初日は平年十一月四日終雪は翌年四月十五日とす年によりては十月下旬に初雪の飛ぶことあり又稀に五月に入りて終雪を見ることなきよあらず降雪日數は一箇年百五日の多きに達すと雖も降量少なく其地面を覆ふは平均十一月三日なるも其後融解し根雪は平年一月七日に始まり三月一日に終り其期間僅に五十四日其間の平均積量は地上四寸四分よ過ぎず

(四)降水量

降水量は全年總量千百五十九耗(三尺六寸二分五厘)にして各月に就て言へば九月最も多く七月八月十月之に次ぎ一月最も少あく二月三月之に次ぐ降水日數は全年百九十三日にして各期に多く四月より八月に至る間に少なし例年五十耗(一寸六分五厘)以上の强雨は七月より九月に至る間に多く百耗(三寸三分)以上の大雨は數年間僅に一回のみなり

○略史

函館は方今特別自治制の下にありて區と稱せらる國府とは固と蝦夷語にてウシヨロケシと稱す港内の端と云ふ義なりしに轉化してウスケシ或はウシキシと略し呼べり寶德年間河野加賀守政通此地に據る其館の形狀整正恰かも箱に似たるより人呼んで箱館と稱せりと云ふ後蝦夷人の攻陷する所となり河野彌二郎右衛門季道(政通の子)敗れて自盡す寛保元年(今距百六十年前)松前藩は函館對岸の龜田番所を此所に移し船舶旅人を檢せしむ天明年の調査に據るに當時戸數四百五十餘人口二千五百貲に海濱の發村漁落のみ而して當時松前藩にては治廳を松前に置き富商の輩を强ひて同所(今の福山)に居住せしめ城下を繁華ならしむる計れり故に箱館の如き良港も壓倒せられて容易に發達すること能はず後ち寛政十一年德川幕府の直轄となるに及び東蝦夷地各漁場の產物を悉く箱館よ於て拂下げたれば商船輻湊し俄かに繁華の地とあれり當時移住者往々一舉して富をなすものあり就中商田屋嘉兵衛は官船の雇船長となり危險を冒して各地を航行し數多の船舶を所有し家屋倉庫を函館よ建設し富豪の名還近に鳴りた

ち享和元年內澗町の海岸を埋立て造船場を設け又溝渠を架して榮國橋と稱す享和二年箱館奉行（文化四年改めて松前奉行と稱す）を置き同三年官舍を新築す斯の如き有樣にて戶口は年を逐ふて增加し出入の船舶を增し文政の始めには戶數千餘となり沖の口番所收納金三千両に達せり文政四年再び松前藩の管轄となり次て高田屋嘉兵衛處刑せらるに及び一時衰退の傾きありしも尙一般の進運に伴ひ漸次戶口を增加し嘉永年間には戶數千六百八十八人口八千九百四十二となれり安政元年四月米國水師提督軍艦數隻を率ひ來りて港內を撿す此年六月幕府亦箱館奉行を置き箱館一帶の地及び東蝦夷地を直轄す是に於て再び本道第一の要地となり市況頓に進步せり安政六年開港公布を許し米露英の諸國領事館を開設す斯く各國貿易の業大に旺盛を極むると奧地開拓の爲め出入の頻繁を加へしとにより商況大ひに振ふに至れり明治元年箱館裁判所を置き閏四月改て箱館府となす十月德川脫走の徒來り據る翌三年五月激戰の後平定す此役や市民多く其業を休み且兵燹に罹り疲弊したりしも同年七月開拓使を置き九月長官來着して開拓使出張所を開き人民を慰撫したりしかば人々安堵して稍々生業を恢復せり是より先に當地名箱館の字を用ひたりしに同年八月國郡劃定以來函館の字に改めたり明治四年三月郵便事務を開始し六月函館札幌間電信線を架し八月函館青森間海底電信線を布沈す玆に於て通信の機關稍々備はる此年開拓創業費として兌換券二百五十萬圓を發行す先づ函館札幌間道路開鑿に着手し大ひに當地の景氣を添へたり同十二年大火に街路家屋の大改造を行ひ舊來の面目を一新するに至れり明治十三年區役所を置き區會を開設す明治十五年二月開拓使廢せられ函館支廳を閉ぢ函館縣を置く明治十九年一月函館縣を廢し北海道支廳を置く同年十二月支廳を廢し明治二十一年龜田川の流末を轉じて大森港に注ぎ溝渠を埋む又同年豫て半畝ありし水道の布設に着手し鐵管を以て赤川より水を引き三年にして竣工す其經費二十三萬餘圓內官の補助七萬五千圓とす此水道落成の後飲用及び防火の爲め大なる便益を得たり本道拓殖の業年々進步するに從ひ本道の門戶たる當地は益々繁榮を增し戶口を加へ電燈を設け馬車鐵道を敷電話線を架し水道を增設する等年々著しく發達し殊に明治三十年當區の事業として八十三萬圓（二十萬圓政府補助）の豫定を以て函館港改良工事を起し舊辨天砲臺先を埋立て新濱町臺場町仲町帆影町小舟町の五街を設け又港內を浚渫し明治三十三年に至り竣工せり其他若松町海面の埋立函館船渠株式會社の創立函館山の築城は皆近年著名の事實にして明治三十二年九月龜田村の一部を割きて當區に編入し十月以降區制を施行す

登錄商標
久
登錄商標
金久味噌
◉函館區旭町◉電話八〇九番◉金久宮崎味噌製造場精製◉
◉本品の發賣は數十年前にあり北海道最古の歷史を有す◉

○港灣

函館港は市街の北西にあり葛登支岬と大鼻の岬と相抱容して成せる函館灣の奧部にして國法上外國通商を許したる港界は

阿野澗岬より南方沖合半海里の所より上磯村有川口の東海岸迄の一線内に含まれ其海岸線は三里十町に亘り水面積約八百萬坪ゝ達す港形巴字に似たるを以て巴港の稱あり入港船舶は南方津輕海峽より葛登支岬大鼻岬の間を北に進み港の區域に入り函館山を繞り東に轉じて碇泊するを例とす港内風浪の虞極めて少なく滯留の船舶は碇繫せざるも殆んと安全なるを以て昔時は諸國の水主等此港を(綱知らずの港)と呼びたり亦以て其如何に良港なるやを知るべし明治二十九年區の事業として港灣改良の工事を起し港内を浚渫し海岸町に防砂堤を築き舊辨天砲臺地先を埋立てたり今又國費を以て完全なる防波堤及防砂堤の築造に着手したれば竣工の曉は一層の良港となるに至らん碇泊の區域は最近の實測ゝ依れば凡五十五万四千六百餘坪たりと雖も其干潮面十八尺以上を汽船十二尺以上を帆船の碇繫區とすれば右三分の二即ち三十七萬三千六百餘坪を以て適當の碇

泊區域と認むるを得べし港底は概して泥土にして錨泊に適し礫底は僅かに辨天岬角の附近に之を見るのみ港内の潮流は一定せずと雖も概して差し潮は龜田方面より岸に沿ひて南下し西に曲り辨天岬の角より港内に環流するものと葛登支方面より直入し寒川附近より直ちに右轉南下する上げ汐との兩潮混同して退去するものゝ如し而して本港の水面南西の一部分のみ開けて津輕海峽に接續し他は皆陸地を以て圍繞せらるゝか故に上げ汐の際西風吹き起るときは退潮路を扼するを以て水位嵩まり之に反するときは水位低落するを常とす港内には目下繫船浮標七箇あり皆鐵製圓筒形なり其内四箇は日本郵船株式會社に屬し水深四五尋の處にあり二箇は函館船渠株式會社一箇は函館汽船株式會社に屬す棧橋二あり共ゝ木造なり其一は東濱町に在り長十五間巾五間にして專ら旅客の出入する處なり他の一は若松町にあり汽車汽船の聯絡を便ゝ且つ旅客の去來多し函館港の價値を知らんと欲せば津輕海峽の性質を知らざるべからず津輕海峽は本州と北海道とを南北に離分し太平洋と日本海とを東西に連絡する要所にして函館は此要所に於ける唯一の良港なれば本州と北海道との交通は多く函館を經由し太平洋日本海間ゝ於ける航海の船舶も亦函館に寄港するを例とす是れ函館か常に船舶輻輳し帆檣林立の狀態にある所以ゝして區の繁榮は全く此の港に係るものなり

○戸數及人口

年次	現住人口 現在戸數	本籍	出寄留	入寄留	現住
明治四十年	二〇、三七五	七六、六八七	三三、八九九	三四、二五四	八八、〇四二
同四十一年	二〇、四六三	七九、六八三	三三、九四〇	三一、五五五	八七、二九八
同四十二年	二〇、五四一	七九、八〇九	二四、五九四	三三、三三三	八七、五三八
同四十三年	二〇、六九一	八六、四四一	三三、五五五	三五、九八二	八八、八八八
同四十四年	二〇、七七九	八六、五〇五	三三、六二一	三六、六五四	八九、五四八

○函館市街宅地賃貸價格

一坪ニ付一箇年

年次	上等	中等	下等	平均
明治三十八年	三、八〇〇円	一、八五三円	一、二三七	一、六三〇円
仝三十九年	四、〇〇〇	一、九〇〇	一、二五〇	一、七一七
仝四十年	六、〇〇〇	一、四二〇	一、二八八	二、五六九
仝四十一年	五、五〇〇	一、三五〇	一、二五〇	二、二六六
仝四十二年	五、〇〇〇	二、五〇〇	一、七〇〇	二、七三五

函館の公定地價は高きに失したるも本道の地租は公定地價の百分の一なるを以て敢て苦痛を感ぜざりしか明治三十七年非常特別稅法發布の結果百分の十七個半を增徵せられ一躍十八倍半となり區內の最高地租は一坪ニ付一圓二十六錢となりたり全國都市中地價の最も高き大坂すら一坪に付九十七錢五厘なるに函館は之に超過し全國中最高位を占むるに至りたれば其苦痛言ふべからざるものあり然れども時恰も未曾有の時局に際したるを以て苦痛を忍びて納稅を怠らざりしも三十九年政府が宅地價修正法案を帝國議會に提出し府縣の地租と均しく百分の二個半ニ改められんとするや憂慮措く能はず函館區會は滿場一致を以て地價修正に關する意見書を議決して內務大藏兩大臣に致し地主も亦連署して兩大臣に請願する所あり其後復地租据置等ニ關し請願するもの數回幸に四十三年三月地價修正法發布せられたる結果地價ニ於て增加せるも地租に於て輕減せられ區民の負擔は殆んど半額に減じ爲めに愁眉を開くを得たり

○內外國貿易噸數總計表

種別	出入噸數	輸出噸數	輸入噸數	合計噸數
海運	府縣諸港	五五三、二七一	六八二、〇四五	一、二三五、三一六
	本道諸港			
陸運	鐵道	六八、七二〇	九五、八三一	一六四、五五一
內國貿易計		六二一、九九一	七七七、八七六	一、三九九、八六七
外國貿易	普通貿易	七五、八五三	二、九〇六	七八、七五九
	漁業貿易	二八、二八五	四八、一九〇	七六、四七五

外國貿易計	一〇四、一三八	五一、〇九六	一五五、二三四
內外國貿易通計	七二六、一二九	八二八、九七二	一、五五五、一〇一

○內外船舶最近三ヶ年對照表

年次	輸出入	輸出入
	內國船	外國船
明治四十一年	九〇九、四五五艘	二八〇、〇六六艘
同四十二年	七四四、二九七	四九〇、八五四
同四十三年	七八五、九〇二	一五一、九八二

○內外國出入船客最近三ヶ年對照表

年次	出入	出船客	入船客
明治四十一年		一六四、八八三	一九六、九二六
同四十二年		一六一、三一八	一七八、一〇九
同四十三年		一六六、〇九四	一八六、七五〇

○函館區及郡部選出衆議院

議員

函館區選出衆議院議員　小橋榮太郎

函館郡部選出衆議院議員　遠藤吉平

○函館區選出道會

議員

函館區選出道會議員　松下熊槌　田村力三郎

○官衙

函館支廳明治三十年官制改革の結果置かれたるものにして以前に置かれたる支廳に比すれば其權限甚だ狹く舊郡區役所の權限を稍々廣めたるものに過ぎず函館控訴院函館地方裁判所函館區裁判所函館稅關函館監獄函館警察署は前時代より繼續せり其他變更ありしもの及び新に設けられたる主要の官衙左の如し

函館要塞大隊　明治三十年十二月設置

函館聯隊區司令部　明治二十九年十二月設置

函館憲兵分隊　明治二十九年五月設置

函館專賣支局　明治四十年九月設置し出張所を小樽に置く

官衙

函館海事部　初め海事局と稱し明治二十二年六月設置四十三年一月札幌遞信管理局海事部と改稱す

函館地方海員審判所　明治三十年六月設置

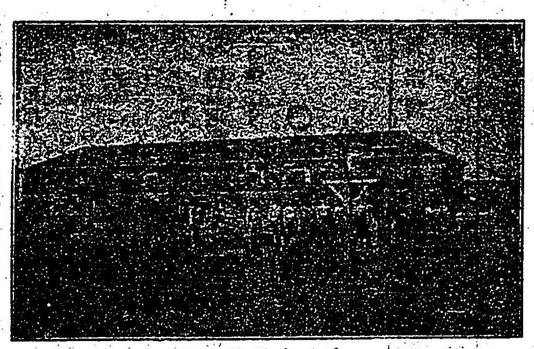
函館控訴院

函館郵便局　明治十九年三月函館郵便局函館電信分局共に一等に班し二十年十二月兩局を合せ函館郵便電信局と改稱す後函館郵便局と改め二等局となり四十三年四月復一等局に編入せらる

函館稅務署　明治三十年四月設置

函館水上警察署　十八年十二月設置せらる水上警察署は十九年仲濱町分署を廢し復水上警察署を置き同事務を掌らしめしが二十四年四月廢し仲濱町分署を置きて同事務を掌らしめしが二十五年十一月より地方

函館一等測候所　十九年一月より毎日三回觀測を改め六回觀測及び午後九時萬國同時觀測を施行し二十一年一等測候所と定められ七月より毎時觀測を施行し二十五年十一月より地方天氣豫報を發す



砲兵大隊練兵場

砲兵大隊練兵場

右の外帝室林野管理局青森支廳函館出張所北海道廳函館營林區署及明治三十年十二月函館に要塞砲兵大隊を置かるゝものは前後二回の水道敷設函館港の改修若松區の埋立等なり區制は明治三十年勅令第百五十八號を以て發布せらるゝ三十二年其一部を改正し同年十月一日より施行せられたり是に於て從來官選區長は區會の推薦する所となり助役收入役は新に設けられ區會議員の數は三十人にして區會の權限も亦擴張せられたり區制施行後の區長たりし人は左の如し

○區政

函館區役所は明治二十年一月船見町より舊函館支廳跡に移轉す二十三年八月區會規則を改め區會議員定員を二十人となす區制施行前に於ける區の事業中顯著

區政	氏名	就任年月	退職年月
	林悅郎	明治三十三年一月十七日	明治三十六年四月八日

末弘直方	同三十六年九月十五日	同三十七年九月廿日
山田邦彦	同三十八年三月卅一日	同四十二年四月十日
竹内與兵衛	同四十二年八月卅日	同四十三年八月廿四日
北守政直	同四十三年十一月八日	

助役は三十一年一月北守政直就職四十三年十二月澁谷金次郎之に代る收入役は三十三年一月澁谷金次郎就職金次郎助役に轉せし後松尾雅枝之に任ず明治三十三年三月函館區常設委員規則を設く其人員は八名にして區會議員より區會之を選擧し區長の指揮を承けて〔一〕區有土地建物に關する事項〔二〕水道保存に關する事項〔三〕公園地に關する事項〔四〕町會所取締に關する事項〔五〕土木に關する事項〔六〕區の稅源に關する事項を掌らしむ又同年十月函館區傳染病豫防委員規則を設く其人員は十名にして其五名は區會議員より選出し三名は區公民中區會議員選擧權を有する者より選出し二名は區長に於て醫師より選任す

○警察機關

(一)警察署

警察署	警察分署	巡査派出所	駐在所	計
一	一	一四	一	一七

水上警察署は仲濱町にあり

(二)消防組

消防組は六部に區劃し其組織は左の如し

組頭　武富平作

	組頭	部長	小頭	常備消防夫	豫備消防夫	機關手	馬丁
第一部	一	二	六	二五			
第二部	一	二	六	二五			
第三部	一	二	六	二五			
第四部	一	二	六	二五			
第五部	一	二	六	二五			
第六部	一	二	二	二九			
水上部	……	……	……	八			
蒸氣ポンプ	……	……	……	三〇	三	三	

外に喇叭手一名あり尚ほ明治四十五年度に於て蒸氣ポンプ一臺增設する由なり

登錄商標
久
登錄商標
金久味噌
◉函館區旭町◉電話八〇九番◉金久宮崎味噌製造場精製◉
◉本品の發賣は數十年前にあり北海道最古の歷史を有す◉

◎教育機關

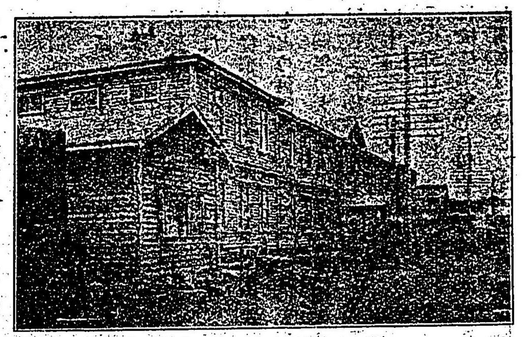
(一)官廳立諸學校

◎函館商船學校

函館縣の舊に仍り繼續せし二十年末現在生徒四十一名外ゝ變則生徒あり以て航海業者の函館滯留中の者を教ゆ而して道廳の意見は遞信省の管理に屬するを便なりとし之を同省に稟議し二十一年四月遞信省に引繼き二十四年東京商船學校に併せ其分校となせしが後之を廢止せり然れども函館は此種學校必要なるを以て三十四年廳立として之を設く四十年燒失し更に建築し四十一年船見町に移る修業年限は本科三年豫科一年ゝして別に專修科あり四十二年度末現在生徒本科二百三十名豫科十七名なり

◎函館商業學校

函館は釜道商業の中心なれば殊に後進者を教育し善良の商買を養成するの必要あるを以て十九年九月官費を以て商業學校を元町ゝ設立し二十年一月開校授業し尋で公園内の商品陳列場を其附屬となせり二十九年三月本校を廢し四月中新設の中學校に商業專修科を置き生徒を引繼ざしが三十二年六月中學校令改正の結果商業專修科廢止に付更に甲種程度の商業學校を設立し三十四年地方費支辨に移し廳立となす四十年類燒し更に建築す四十一年渡邊熊四郎より金壹萬參千圓を地方費の内に寄付し其利子を擧げて之を本校費ゝ充てしめたるを以て



廳立函館商業學校

年々新學生百名を限り募集收容せざるも四十二年度より百五十名に增加することゝなれり修業年限は甲種本科三年豫科二年にして四十二年末現在生徒數本科二百十四人豫科二百三十六人なり三十二年以來の卒業者本科三百二十七人別に商業補習學校を附設し夜學を設く生徒四十二年末現在五十五名なり

◎函館中學校

明治二十八年四月元町ゝ開設し尋常中學科並ゝ商業專修科を設き舊商業學校及び附屬商品陳列場一切の物件を繼承す三十二年中學校令改正の結果商業專修科を廢し三十四年廳立となす三十八年大字穗田村湯の川迺に校舍を建築し翌年落成す四十二年度末現在生徒數四百十五名創業より同年度までに至る卒業生三百五十八名なり

◎函館高等女學校

明治三十八年四月廳立として元町に設置す修業年限は本科四

年補習科一年なり四十年類燒し後更に建築す四十二年度末現在生徒數本校三百十八名補習科四十八名なり創立以來の卒業生は本科百四十三名補習科四十六名とす

(二)公私立小學校及幼稚園

◉區立彌生尋常高等小學校

當校は區內最大の小學校たりしが三十四年四月尋常高等小學校は從來の建物を使用し高等小學校は船見町天神町に跨り位置を占め舊船改所を以て假校舍に充て四十年更に新築せり然るに同年の大火により兩校共ゝ燒失せしかば一時他の學校を使用し二部敎授をなす四十一年九月二校を合併して舊名に復し四十二年一月校舍新築竣りて之に移る

區立兩國女子小學校

◉區立智尋常高等小學校

當校は二十年七月彌生小學校の分校となせしが二十三年一月復た獨立の一校となす三十九年兒童圖書館を開設す四十年校舍改築中類燒に罹り四十一年新築工成りて校舍を擴張す

◉區立兩國女子尋常高等小學校

明治二十年度師範學校兩國館分校廢せらるゝ二十二年七月公立として兩國女學校を設く二十六年四月女子高等小學校となし四十年四月尋常科を併置す四十年校舍類燒し他校を假用し半日敎授をなせしが四十三年八月船見町に新築落成し之に移る

◉區立幸尋常高等小學校

二十年一月公立より私立となりしが二十九年八月類燒す三十年鍛冶町に校舍を新築し公立幸尋常高等小學校と稱す三十四年四月所屬寒川特別敎育所を設く四十年本校類燒し四十一年十一月新築落成す

◉區立住吉尋常高等小學校

二十一年公立より私立となりしが三十二年四月公立に復し尋常小學校となす三十八年區費三萬一千餘圓を以て校舍を改築し尋常高等小學校とあす

區立東川尋常小學校

◉區立東川尋常高等小學校
二十一年公立より私立となりしが三十一年四月公立に復す三十二年九月校舍類燒し翌年新築す此時有志者より紀念として松樹百本を寄附す

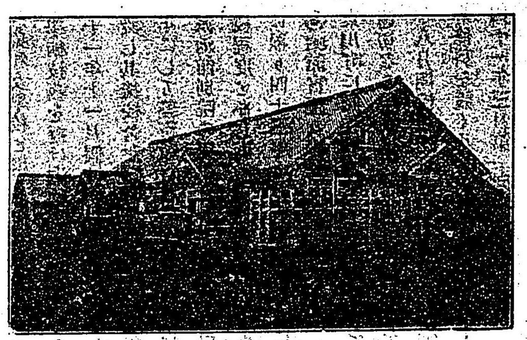
◉區立若松尋常高等小學校
明治三十六年九月開校

◉區立新川尋常高等小學校
明治四十五年四月開校

◉區立龜田尋常高等小學校
十九年從來の校舍狹隘を告ぐるを以て更に八幡社裏に新築し翌年二月竣工す建築費は佐野定七時任爲基以下寄附一千餘圓村民支出七百五拾圓其他七百五十圓は官の補助を仰ぎたり二十五年四月高等尋常簡易の三科を並置し二十八年簡易を廢す三十二年十月區制實施と共に區內に編入せらる三十七年四月尋常小學校となし四十年四月高等科を復す

◉區立高砂尋常小學校
二十年一月公立を變じて私立となし尋常小學校となす二十五年五月高等科を並置し二十九年校舍を改築す三十一年公立に復し高等科を廢す

◉私立鶴岡尋常小學校
貧民學校として從來月謝を徵收せざる同校は三十二年八月社團法人となし三十三年一月渡邊孝平（初代熊四郎退隱後名）より基本金一萬圓及び高砂町宅地八百九十八坪を校舍敷地として寄せらる同年寄付金五千四百餘圓を募り校舍移轉新築せり



鶴岡小學校

◉私立吉祥女學校
高龍寺內曹洞宗教會長有田法宗等高龍寺檀徒と謀り明治二十二年地藏町に創立す三十二年校舍類燒し更に西川町に新築す

◉私立惠以尋常小學校
眞宗大谷派本願寺北海道慈善會の事業として貧民の爲め授業料を徵收せざるを目的とし三十三年旭町に創立す當時簡易科を並置し四十二年尋常小學校の六學年となりしより高等科を廢す同年十月一箇月一人に付金十五錢の授業料を徵收する認可を受く

◉函館幼稚園
現今東川町にあり明治三十九年の創設にして四十二年幼兒數男女百二十六名なり

（三）其他各種學校

◉遣愛女學校

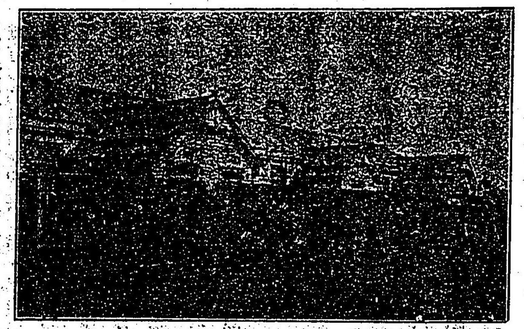
明治十五年美以教會の事業として創設したる學校にして明治三十六年大字亀田村湯川通時任慶場の一部を購入し三十九年定礎式を行ひ新校舎建築に着手し四十年九月竣工の筈なりしも同年六月自火のため寄宿舎全部焼失して次で同年八月函館大火のため工事捗らず四十一年一月を以て假に開校し爾後内外の工事を了して同年七月二十九日竣工献堂の式を擧行するに至れり校舎其他設備よく整ふ學科は高等女學校に類し修業年限五箇年明治四十二年現在教員十六名生徒百七十七名なり

◉私立函館大谷女學校

元六和女學校と稱し區内七寺院協同の下に成り女子に須要なる學術技藝を授け淑徳を涵養せしむるを以て目的とし明治二十一年十一月假校舎を元町に設置したり翌年更に尋常科を附設し其後校舎を曙町に新築す修業年限は本科專修科共に四箇年にして義務教育を卒りたる者を收容し三十五年に至り大谷派函館別院の所属となり同年五月學則を改め本科を高等女學校程度とし同時に現時の校に改めたり四十年八月類焼の厄に罹り四十三年十月に至り漸位置に校舎を再築せり

◉函館實踐女學校

東川町に固有の國風に依りて女徳を啓發し併せて修身齊家に適切なる學術技藝を修得せしむるを以て目的とし明治三十九年八月開校の認可を受く四十二年學則を改正し本科及び裁縫專修科を設く八月祝融の災に罹り十月に至り假校舎を新築し四十一年三月第一回卒業式を擧ぐ



區立若松小學校

◉聖保祿女學校

明治十一年の創立に係り三十一年九月より校舎を增築し小學校を附設し之を元町女子尋常高等小學校と稱せり四十年類焼の爲め約二十萬圓の損害を蒙り一時休校したりしが翌年十二月校舎を再築し小學部を廢し本科及び裁縫專修科を設け義務教育修了したる女子に必須なる學科を授くることゝなし四十三年四月を以て開校したり

◉區立函館工業補習學校

尋常小學校卒業程度の學生を收容して補習教育を施すと共に他日工業に從事する者の爲めに須要なる素地を修得せしむるを以て目的とし明治四十四年三月設立の認可を得五月を以て開校式を擧ぐ修業年限は二箇年として現在生徒數百五十名を上れり

◉私立函館女子裁縫學館

明治二十四年十一月三日の創立に係り爾來克く幾多の困難を

經て今や着々其實蹟を上げつゝあり館主は高柔九平にして現在生徒數百四十名希望者には寄宿舍の設備あり

（四）圖書館

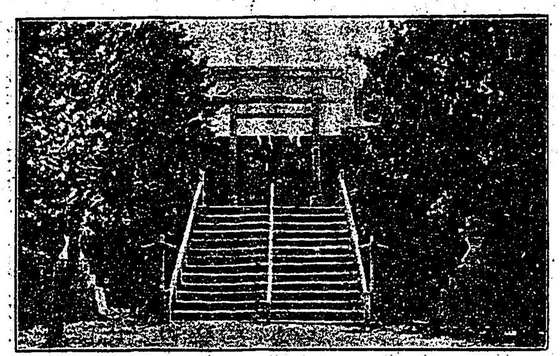
明治三十九年函館毎日新聞投稿者の組織せる函毎綠叢會は谷地頭に圖書館設立の議を決し翌四十年六月先づ假りに該新聞社寄贈の書籍を以て鯖潤町に附屬圖書室を設け之を公開せしが同年八月の大火に際し書籍の大部分を燒失し已むを得ず一時圖書室を閉鎖せり四十一年該會幹事岡田健藏東京及び東北地方の圖書館を視察し歸り協議の上圖書館設立の必成を期し廣く有志の贊成を求む舊英語學校殘務委員該校殘餘金九百十三圓餘を寄附して創立費に充つ其他有志者の寄附少なからず依て區役所に請ひ公園內協同館を借りて圖書館に充つ四十二年二月開館式を擧げ三月より公衆の閲覽を許せり該館には又函館並に其附近に於ける石器時代の遺物なる石器土器の類約七百点を藏し其內學術上貴重の品少なからず

○宗教機關

（一）神社

國幣中社函館八幡社

箱館奉行所の祈願所として二月八月兩祭典には葵章高張提灯幕等を貸與せられ幣帛神饌等を献せられ後恒例となれり明治維新となり函館裁判所より菊章紫白地兩幕高張提灯を貸與し



國幣中社函館八幡社

清水谷知事參向勅祭を行はる二年八月朝廷より供米料五十兩下賜せられ爾後恒例となる明治十年國幣小社に列す十一年十二年兩度火災に罹り十三年十月谷地上鎭祭し本殿幣殿藏舍神饌所玉垣等を新築す境內は千五百八十九坪三合なりしが後增して三千七十坪六勺となす十六年神庫を十七年社務所を新設す二十九年十月國幣中社に昇格す其他高燥樹木多く閑雅にして眺望に富み函館の一勝地たり

◎函館區旭町◎電話八〇九番◎金久宮崎味噌製造場精製◎
登錄商標 久 登錄商標 金久味噌
◎本品の發賣は數十年前にあり北海道最古の歷史を有す◎

◉函館招魂社
汐見町にあり明治二年勤王戰死者の靈を祭る同年九月創建十年七月薇松前藩主松前修廣等金を献じ拜殿を建て有地行古等碑を建つ

◉郷社龜田八幡社
明治九年郷社に列す十五年四月一品熾仁親王より額面を寄贈せらる

◉郷社山上大神宮
明治七年山上大神宮と改稱し郷社に列せらる十一年類燒の後船見町八十四番地に移り三十五年現今の同町百二十五番地に奉遷す

◉村社嚴嶋神社
辨天社と稱し辨天町の乾の隅にありしを享和元年海中を埋築して之を移す文化九年其地を官の倉庫地となし町の坤の角に移す安政四年辨天祠喜築造の際又之を同町八十七番地に移す明治四年改めて市杵島大神と稱す後村社に列す二十五年厳島神社と改稱す

◉村社船魂神社
昔に觀音堂と云ひたるを後船魂大明神と稱す元町にあり開拓使の時村社に列せらる

◉村社住吉神社
住吉町にあり創建年代明かならず安永年中再築すと云ふ明治八年村社に列す其地海岸丘陵にありて艱月に宜し三十年以來附近の土石を採り丘陵を壞崩したるにより四十二年更に境内を改修し社殿を改築せり

◉村社東照宮
五稜廓築造の際上山村は廓の鬼門と方るを以て同村の丘地と東照宮を鎭祭す御用達間屋等献金して神殿を造營す明治二年兵燹に罹り春日町天祐寺に移す七年六月谷地頭と奉遷し村社に列せらる十一年南新町に移したるか二十二年水道敷設の際其他水道用に必要なるを以て蓬萊町に轉す

◉海神社
嘗と龍神宮と稱す綿津見神を祭り八幡宮の攝社たり安永九年漁業者漁業安全の爲め地藏町と祭り明治六年西川町と移る其附近を龍神町と稱せしは之に因るなり

◉豊川稻荷神社
文久二年建立す其地を豊川町と稱するは此神社あるに因る函館八幡社の攝社たり

◉鶴若稻荷神社
創始明かならず明治五年函館八幡社に合祭し十二年高砂町と移轉す俗と鶴若稻荷と稱す八幡社の攝社たり

◉稻荷神社
大森町にあり大森稻荷と稱す創始明かならず明治四十三年同町共有地五番地に奉遷し社殿を改築す

◉三吉神社
祭神は大巳貴命三吉大神少彦名命にして住吉町にあり明治七

年秋田縣太平山三吉神社の分靈を移し祀り船魂神社の附屬となす二十六年より至り獨立して一社となる

右外稻荷神社數社八幡社住吉神社川懸神社匠廼祖神社天滿宮日隅神社秋葉社等ありしも或は廢絕し或は他社と合祭したり

(二)佛教

◉高龍寺（曹洞宗）

寶永三年龜田より移轉したる寺にして天保八年火災に罹る明治十二年六月辨天町より台町に轉ず二十一年又燒失し後建築す同寺所藏螺鈿波濤描く所の涅槃像雙幅は傑作を以て著名なり

◉稱名寺（淨土宗）

寶永五年龜田より移轉し富岡町の地にあり明治十二年類燒し船見町に換地を得て十四年八月移轉す二十九年八月及四十年八月又火災に罹る境內より貞治の古碑及び寶曆三年龜田奉行酒井喜澄の建てたる河野加賀守政通の碑あり

◉寶行寺（日蓮宗）

富岡町の地にあり明治十二年類燒し換地を得て十四年十一月船見町に移る元と福山法華寺末なりしが十七年九月甲洲身延山久遠寺末に編入し二十三年北海道身延山觸頭寺となる二十九年八月及び四十年八月又火災に罹る僧日持の題目石は三十一年函館山頂より移して同寺の境內にあり

◉眞宗大谷派本願寺函館別院

寶永六年泉澤町より富岡町の地に移したる寺にして淨玄寺と稱す文政十二年火災に罹る安政五年本山掛所となし本願寺箱館御坊淨玄寺と稱す明治九年函館別院と改め十二年燒失し十四年元町に移轉し四十年八月又火災に罹り四十三年建築す

◉眞宗本派本願寺別院

安政三年陸奥國願乘寺僧法惠を出張せしめ支院創建を計畫せしめ幕府の許可を得て安政四年東川町の地に創立し本願寺掛所と稱す人呼んで願乘寺と云ふ本願寺開鑿の川を願乘寺川と云ふは之に依る明治十年三月改めて本願寺別院となす明治三十二年九月及び四十年八月祝融の災に罹り四十三年煉瓦を以て新築せり

◉眞言寺（眞言宗）

文久元年天神町に創立す本山廷曆寺末なり明治四年火災に罹り台町に代地を得て六年移轉す

◉新注連寺（眞言宗新義派智山派）

相生町にあり湯殿山と號す慶應三年西川町に出張所を置き後相生町に建設す明治六年燒失十一年汐見町に廿二年現今の地に移る

◉函館寺（眞言宗新義派）

松風町にあり明治二十五年新注連寺内より教會出張所を設け三十三年一寺となす成田山新勝寺別院と稱す

高野寺（眞言宗高野派）

明治十七年六月東川町に創立二十五年青柳町に移る

◉天祐寺（天台宗）
嘉永中天祐庵を設け慶應中棲似等樹院休泊所となし明治九年天祐寺と改稱す春日町にあり

◉常住寺（日蓮宗）
明治十二年龜若町に說教所を設け十六年蓬萊町に創立の許可を受け二十二年更に相生町に轉ず

◉善光寺別院（淨土宗）
明治二十七年說教所を設け三十一年信州善光寺法務所を移し三十二年榮町に建築す

◉慈尊寺（眞言宗豊山派）
明治二十一年創立船見町にあり

◉淨光寺（時宗）
龜田村字八幡後手にあり本山淨光寺末なり明治二十三年宗教務支所設置二十六年寺號を公稱す

◉萬年寺（眞宗大谷派）
龜田村字村内にあり明治二十六年道場を設け三十一年一寺となす

前記寺院の外說教所數個所あり又佛教青年會あり

(三)基督教

函館に於ける基督教會は文久元年ハリストス復活聖堂（希臘教）の開設を以て嚆矢とす基督教は佛教に比すれば其勢力尚ほ甚だ薄しと謂はざるを得ず其建設せる學校は概ね女子の教育に努め傍ら宗教擴張の資に供するものとす現在の教會堂は左の如し

當別之トラピスト修院

(三)教會堂

	所在地
ハリスト復活聖堂	元町
日本基督函館教會	相生町
函館基督教會堂	曙町
日本メソヂスト函館教會	會所町
日本聖公會函館聖公會	蓬萊町
函館教館	地藏町
元町天主堂	元町
天主公教童貞修院	龜田村
龜田天主公教會	

(四)神道各教會

黒住の會所　講　師　仲元寺治忠
金光會教會所　會　長　失代幸次郎
御嶽教　布教師　久須美豊作
　中教正
神道伏見本宮崇敬教會結成所　主　任　三上屯藏
　少教正
大成教連門教會　詰　員　坂本初太郎

尙ほ神道各教會の機關として「神道各教同志會」の設立あり毎月九日函館區會所町四十九番地(三上屯藏宅)の仝事務所に會同して講演あり以て斯道の爲めに盡しつゝあり該會の役員諸氏左の如し

會　長　黒住教講師　仲元寺治忠
副會長　御嶽教中教正　久須美豊作
主　事　神道本局少教正　三上屯藏

◉函館區旭川◉電話八〇九番◉金久宮崎味噌製造場精製
登録商標 金久味噌
本品の發賣は數十年前にさり北海道最古の歴史を有す

○教濟機關

◉函館慈惠院

同院は新川町二百七十四番地にあり明治三十三年仲山與七が設立を唱へ上出大法寺非四郎兵衛亦其意あり三人協力して之を設立するに至れり與七は秋田縣の人民に父母を失ひ其に難苦を嘗め明治十三年二十一歳にして函館に漂寄し人力車夫となる偶々外國宣教師が孤兒貧兒を收容救濟するを見て自己の不幸なる經歴を顧み感慨措く能はず遂に將來慈善事業を經營し困究者を救はんとの決心をなせりと云ふ後獨立して人力車營業を開始し精勵業に努め轉じて米穀商となる京濱に至り養育慈善事業を調査し計畫する所ありしに大法四郎兵衛の兩人亦此業に意あり是に於て三人心を協せ四郎兵衛は院舍敷地千四百二十六坪八合及び金千五百圓與七大法は各五百圓を出し院舍を建築し三十三年一月開院せり三十四年區役所より行旅病人取扱方を囑託せらる十二月本院を社團法人組織となし伊藤佐次兵衛外數十名入社す三十七年北海道慈惠救濟資金より向ふ十箇年毎年二百五十圓宛の下附を受く三十八年十二月火災に罹り四十一年三月宮內省より本院再興費へ金五百圓下賜せらる道廳よりも金九百圓補助せらる同年四郎兵衛又土地四千坪を相馬哲平基本金の內へ一萬圓を寄附す十月活動寫眞を購入す四十一年工費一萬二千餘圓を以て院舍を建築す明治四十四年五月復た火を失ひ燒失の厄に遭ひ時の理事長有江金太郎氏く有志の寄附を仰ぎ再築に着手せり院の事業は孤兒保育老衰者養育行旅病人取扱及び施療にして創立以來四十三年玄

てに收容する所二千三百六十八名一時救助者七百四十名合計三千百八人なり同年末現在(一)養育兒六十三名男三十七女二十六其内區より依託せられたるもの十八名あり學齡に達するものは小學校に通學せしむ(二)院内扶養者三十九名男十九女二十即ち疾病二十三名老衰七名不具者六名盲目三名あり疾病者は院の醫師をして診察投藥せしむ(三)自宅扶養者七名(四)行旅病人五十九名但し病人は函館區及び函館支廳の依託に係るを以て院の救濟にあらず院の維持は社員の出資基本財産より生ずる收入篤志者の寄附其他國庫及び區役所交附金等を以てす

◉函館同仁會

同會は舊函館出獄人保護會と稱す明治四十年七月函館監獄教誨師藤井大威が主唱し有志の贊成を得て設立せり後大威他に轉じて斯業殆んど中絶せしが四十三年池上三郎（函館控訴院檢事長）印南於蒐吉函館監獄典獄等相謀り事務所を假に函館監獄署内に移し事業の振興を圖り基本財産數千圓に達し經營觀るべきものあらんとするに至れり四十四年新川に新築工成り發會式を擧ぐ保護の方法は改悛者にして就業を望むに其紹介をなす事出獄歸鄉する者を停車場又は波止場に送る事旅費なき者に之を惠與する事保護會へ收容して監視の引受をなす事等なり其經費は會員の醵金篤志者の寄附金を以て支辨し司法省よりも四十二年度金二百圓四十三年度二百五十圓を補助せらる

◉函館無料宿泊所

寶町にあり明治四十三年五月仲山與七の設立に係る其目的は木賃宿にすら止宿し得ざる貧民を無料にて止宿せしむる事職業を紹介し其得る所の内より食費を支辨せる殘餘を貯蓄し旅行中の者には旅費に充てしめ然らざるものには他日獨立自營の資本を得せしむる等にあり創立日尚ほ淺くして未だ其効果を見る能はずと雖も函館の如き旅人の出入多き地には此種の設備の必要なること衆人の齋しく認むる所なり

○衛生機關

(一)衛生組合

衛生組合は明治二十三年七月道廳訓令第五十七號の旨趣に基づき之を設くる事となれり幸ひ各町組合頭を以て之を利用し組合頭を以て衛生組長に充て規約を締結して衛生に關する事を取扱へり今現在の區域及組長副組長の諸氏左の如し

區域	組長	副組長
台町	藤村駒吉	安藤善吉
駒止町	工藤長平	小西常吉
船見町	和歌山富次郎	堺正吉
天神町	木田長右衛門	桐田達淳
旅籠町	栗山庄右衛門	鈴木周藏
鍛冶町	飯田喜太郎	小澤德次郎
山脊泊町	中村駕一	熊木官一

鱸澗町　薮越增太郎　新尾市之助
大黑町　市田龜次郎　成田六次郎
辨天町　岩船峰次郎　濱崎利作
大町 仲濱町　山本巳之助　小野秀次郎
富岡町　小柳次郎吉　加藤藤吉
元町　角田忠吉　津田佐兵衛
會所町　長谷川千代三　松川誠
末廣町 東濱町 西部　寺井四郎兵衛　東浦幸次郎
末廣町 東濱町 東部　木嶋豊治　杉村福松
相生町　四ッ柳與三郎　竹內喜七
壽町　田中舍平　菊地演太郎
曙町 汐見町　柿崎長藏　杉浦嘉七
青柳町　四ッ柳龜太郎　熊谷經太郎
春日町　杉浦周作　青木清三郎
住吉町　砂原市次郎　若松竹次郎
谷地頭町　速見辨輔　岩谷平八
蓬萊町　小林與兵衛　鈴木才三郎
寶町　神尾時之助　中井倉造
惠比須町　紺野松次郎　濱崎政吉
船場町　近藤孫三郎　角谷作造
豊川町　池田勝右衛門　高杉藤三郎

汐止町　吉川榮吉　石井鐵太郎
地藏町　加藤慶次郎　萩野市兵衛
西川町　小野庄吉　堀井大助
東川町　廣安幸次郎　野田橋力藏
榮町　清水外次郎　大塲辰太郎
旭町　宮崎竹四郎　國兼藤平
東雲町　小森良吉　加藤作太郎
松風町　和田兼吉　內藤始
新川町　內村喜助　池田醇
大森町　中田鐵五郎　竹內百藏
眞砂町　高田松太郎　石塚彥四郎
鶴岡町　西郡秀左工門　佐野政次
音羽町　太田忠吉　大越楳吉
高砂町　上原守三郎　北條與三郎
若松町　田山安藏　山本富吉
海岸町　反保圓平　坂本德松
大繩町　東谷善助　田中政市
龜田村　大久保利助　中田力藏

(二)病院

函館病院

明治二十三年四月廳立より區立に移り三十八年增築せしか三十三年五月燒失し一時廢絕したり三十五年十二月渡邊孝平金

十萬圓を以て元病院跡地に新築し區に寄附せんことを出願し翌年五月工事に着手し三十八年十月竣工し十一月開院す實際經費十萬六千六百七十圓三十七錢四厘を要し規模宏大設備完全なり四十年八月又燒失せしが火災保險を附し置きたるを以て容易に之を再築するを得て四十二年六月開院したり其敷地三千三百五十五坪四勺建坪千二百八十九坪七合六勺病室三十六にして患者百六名を收容するを得べし

豐川病院

明治三十八年增築せり三十八年函館病院再興により三十九年廢止せしか東部の人民は之を不便とし後私立として再興せり外に區立として精神病院及び傳染病院あり又函館病院が廢立の時龜田郡七飯村に脚氣病室を置きしが區立となりし後廢止し私立脚氣病院之に代りて興りたり是れ該地は脚氣病の治療に適するによるなり

私立病院は漸次增加し現在左の如し

波嶋外科病院	豐川病院		
藤野病院	高松病院		
函館療養院	渡邊病院		
函館外科病院	五稜眼科病院		
町田眼科病院	近藤眼科病院		
北門耳鼻咽喉科病院			

(三) 醫師及齒科醫

醫師は九十名にして齒科醫十四名あり

(四) 藥劑師

藥劑師十二名にして氏名は左の如し

村林元吉	地藏町	市原吾市	網塚唯生	大町
小堀謙之助	大町	後藤幹作	末廣町
白崎喜一郎	地藏町	近藤豐	鶴岡町
草刈元次	鶴岡町	大久保大八郎	海岸町
野田房太郎	函館監獄	小池峯雄	函館專賣支局
若佐豐	函館病院	片柳良雄	函館病院

函館藥劑師會の設立ありて毎月例會を開催し學術的研究を專らとし每會各員の講演あり該會常任幹事は草刈元次なり

(五) 產婆及看護婦

產婆は六十三名看護婦は七十名にして內試驗及第者は十名なり

(六) 函館藥業組合

本組合は明治四十三年十二月の設立に係り組合員は百二十餘名あり役員及評議員の氏名左の如し

役　員

組合長　佐藤宗助　副組合長　草刈元次

會計幹事　白崎七左工門　幹　事　金田一健治郎

評議員

村林乙吉　網塚忠兵衛　國領平七

小林乙五郎　大村新太郎　市村禮治

輕部龜太郎　淺井重太郎　内藤始

川口捨治郎

(七)軍醫分團函館研究會

本會員數は三十餘名を以て組織せられ毎月函館衛戍病院内に於て學術的研究及び講演あり該會の役員氏名左の如し

會　長　陸軍一等軍醫　戸田末吉

幹　事　陸軍三等藥劑官　草刈元次

(八)函館海港檢疫所

函館海港檢疫所は函館消毒所の名を以て明治十八年内務省直轄の下に建築に着手せられ十九年六月竣工し北海道廳之を保管したり二十九年臨時海港檢疫所と改稱し道廳の所管となり今日に至れり内國並に外國より來航する船舶に對す檢疫虎列拉病を發見し之を陸上に墓延せしめざりしはうの最も顯著なるものとす

(九)火葬場

火葬場は明治十九年八月台町四十三番地に設置の許可を受け二十年大人火葬竈を築造し二十年小兒火葬竈二基を二十四年大人竈二基を增設し合せて六基を以て從事し四十年に至り更に改築せり

(十)墓地

墓地は從來處々に散在せしが二十四年本願寺別院付屬の墓地山脊泊共同墓地内に代葬せるを始めとし今は山脊泊及住吉兩處にあり

○商業機關

(一)商業會議所

明治二十三年商業會議所條例を公布せられしが條例第五第六條に商業會議所議員は所得稅を納むる商人たるべき事を規定せり而して當時北海道は所得稅を免除せられ居るを以て該會議所を設くるあたはざりしに二十八年農商務省令第七號を以て北海道に設立する商業會議所會員選擧權被選擧權に關する財產上の資格は所得稅又は代ゆるに地方稅を以てし其納額三圓以上と定むる旨達せられたれば同年九月之を創立し尙ほ三十五年三月商業會議所法の發布せらるや更に定款を議定一總續の認可を經て今日に至れり今其議員數を列記せば左の如し

役　員

會　頭　岡本忠藏

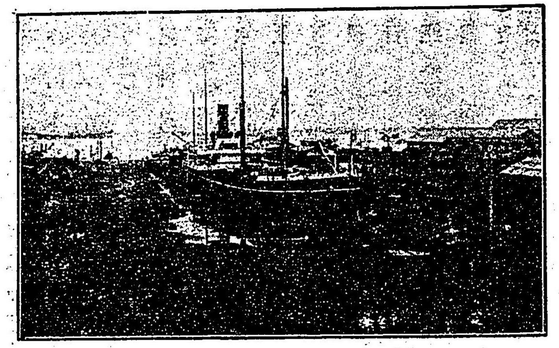
副會頭　松下熊槌

庶務部長

副會頭　有江金太郎
會計部長　金澤彦作
常議員　小熊幸一郎
〃　石垣隈太郎
〃　秦貞三郎
〃　齋藤又右衛門
〃

議員

新興七郎　吉川榮吉
金澤彦作　小熊幸一郎
石垣隈太郎　本金太郎
平出喜三郎　笹野榮吉
工藤嘉七　岡本忠藏
龜井邦太郎　山本巳之助
桂久藏　渡邊三作
和田惟一　秦貞三郎
加藤文五郎　松下熊槌
木嶋豊治　佐々木定吉
寺井四郎兵衛　高橋松太郎
有江金太郎　佐々木忠兵衛
野村正之助　梅津福次郎
鵜澤兼造　齋藤又右衛門
濱根岸太郎　萩野市兵衛



函館船渠會社一部之實況

特別議員

神山和雄　遠藤吉平
八木橋榮吉　廣谷源治
伊丹二郎　竹内與兵衛
久保彦助　高橋文之助
田中正右工門　二木彦七
三坂亥吉　平野萬四郎

(二)商工業組合

當區商業上の同業組合は明治十八年創立以來漸次其數を增し從來區々の弊を改め益する所少なからざりしかやうもすれば一致して物價を引上ぐるの弊を生じ而して此弊は各府縣共にありしを以て農商務省は其矯正に關し各地方廳に內訓する所あり北海道廳は之に基づきて同業組合に

は價格の一定を組合規約に定むることを許されざるに至り各組合は稍々不振の狀況を呈せるも物産商組合酒造組合呉服太物商組合米穀組合の如きは堅固のものなりと稱せらる組合數左の如し

肥料　陶屋組合　繩莚商組合
海陸物産仲立業組合　呉服太物組合
水産組合　醬油釀造組合
魚商組合　物産商組合
西洋洗濯業組合　時計商組合
鐵物商組合　倉庫業組合
材木商組合　雜穀商組合
運送舟業組合　左官職組合
質屋組合　千代盛組合
造船業組合　鍛冶業組合
肉商組合　函館米穀商組合
菓子商組合　貿易商組合
薪炭商組合　洗染物營業組合
通船組合　硫館區外四郡聯合牛馬賣買營業組合
郵船會社請負人組合　露領沿海漁業水産組合
擇捉漁業組合　浴場二同業組二合
料理職組合　樺太建網水産漁業組合

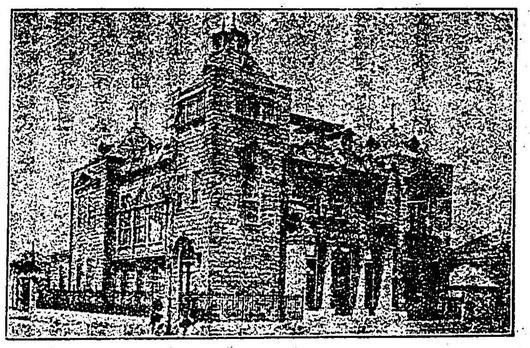
(三)銀行

株式會社函館銀行明治十二年以來營業し資本金を增して百萬圓となし積立金二十五萬一千圓を有す

株式會社二十銀行函館支店明治十八年五月設置

株式會社第三銀行函館支店明治二十年九月設置

株式會社北海道拓殖銀行函館支店明治三十八年四月設置



北海道拓殖銀行函館支店

株式會社函館貯蓄銀行當區の紳商が資本金七萬圓を以て二十九年六月創設せる所にして信用甚だ厚く末廣町本店の外鶴岡町辨天町東雲町の三個所に出張所を置く

株式會社第百十三銀行北海道拓殖貯金銀行函館支店三十九年七月設置

日本銀行函館支店明治二十六年四月出張所として設置し二十八年七月北海道支店となし三十九年八月函館出張所となし四十四年六月復支店となす

株式會社柿本銀行

(四)株式會社

函館船渠株式會社
株式會社函館鹽賣所
千嶋滊船株式會社
巴屋株式會社
樺太物産株式會社
辨天倉庫株式會社
北海道機械製造株式會社
株式會社山石運送店
津輕物産株式會社支店
北海道炭鑛滊船會社 函館賣炭所
帝國生命保險株式會社 支店
大日本人造肥料會社工場

(五)合資會社

合資會社新商店
北海道産業合資會社
合資會社毛山商店
合資會社岡本商店
本庄合資會社
健全合資會社
函館水電株式會社
日高滊船株式會社
函館滊船株式會社
渡嶋鑛業株式會社
函館魚商株式會社
函館精米株式會社
樺太漁業株式會社
目本郵船株式會社支店
ライジングサン石油會社 出張所
內國通運株式會社支店
北海道セメント株式會社 出張所
函館製菟合資會社
函館船具合資會社
合資會社濱崎商店
合資會社三ツ矢商會
古喜競賣合資會社
合資會社函館倉庫
函館製紙合資會社
合資會社菱和軒
函館地所合資會社

(六)合名會社

藤浪合名會社
渡邊合名會社
吉田合名回漕店
キリエント シュルゼー 合名會社
佐野硝子合名會社
龜井貿資合名會社
松陸殖産合名會社
函館煙草元買捌合名會社
金森合名會社
材木製材合名會社
渡邊合名會社三星屋支店
渡邊合名會社回生堂支店
渡邊合名會社一二堂
桝田合名會社支店
今井合名會社支店
合名會社高谷銃砲店
合名會社常野商店
菅谷合名會社
大村合名會社
カヂカ屋合名會社
及能合名會社
中村合名會社
日下部合名會社
辻合名會社
金森合名會社船具店支店
渡邊合名會社魁文舍支店
渡邊合名會社時計店
渡邊合名會社洋服店
小杉合名會社支店
安田商事合名會社支店

(七)營業倉庫

合名會社、營業倉庫

四十年八月の大火燒失の爲めに倉庫は意外の大打撃を受け臨て商業上に大なる損失を生じたるが元來其倉庫業者に大抵資力に富みたるものなれば災後着々復舊工事を營み從前よりも一層の堅牢なる建物を造り以て其業を繼續せり今明治四十三年末に於ける現在營業倉庫を擧ぐれば左の如し

倉庫別	棟數	坪數
函館倉庫	七	一、一九二
藤野倉庫	四	四一四
金森倉庫	四	一、一八〇
安田合名會社倉庫	六	一、七二八
龍紋倉庫	六	一、一五四
辨天倉庫	六	二、二三二
共榮倉庫	四	一、五四六
葛西倉庫	二	四四四
本庄倉庫	一	一三二
計	四〇	一〇、〇二二

前記の外官有又は稅關の保稅倉庫あり民有には日本郵船會社倉庫函館濕船會社倉庫荷揚場倉庫西出倉庫本庄倉庫其他數多の倉庫あり

(八)保險

帝國生命保險會社支店
共濟生命保險會社出張所
日本生命保險會社代理店
日本敎育生命保險會社代理店
仁壽生命保險會社代理店
徵兵生命保險會社代理店
明治生命保險會社代理店
有隣生命保險會社代理店
內國生命保險會社代理店
異宗信徒生命保險會社代理店
萬歲生命保險會社代理店
橫濱生命保險會社代理店
千代田生命保險會社代理店
大同生命保險會社代理店
日淸生命保險會社代理店
富士生命保險會社代理店
太平生命保險會社代理店
太陽生命保險會社代理店
ニューヨーク生命保險會社代理店
カナダサン生命保險會社代理店
セーヨークシャイアリ生命保險會社代理店
東洋生命保險相互會社代理店
帝國海上運送火災保險會社第一代理店

名稱	位置	創立年月
函館船渠會社工場	一辨天町	明治卅九年十二月
全		第二代理店
日本海上運送火災保險會社代理店		
共同海上運送火災保險會社代理店		
橫濱海上運送火災保險會社代理店		
東京海上運送保險會社代理店		
神戶海上運送保險會社代理店		
日本火災保險會社代理店		
明治火災保險會社代理店		
東京海上保險會社代理店		
小樽貨物火災保險會社出張所		
北清海上保險會社代理店		
香港火災保險會社代理店		
フイニック火災保險會社代理店		
リバープールアンドロンドン、アンド、グローブ火災保險會社代理店		
ノールウキチユニオン火災保險會社代理店		
ニージーランド火災海上保險會社代理店		
サウス、ブリデシユ火災海上保險會社代理店		
サン火災保險會社代理店		

(九)工場

名稱	位置	創立年月
大日本人造肥料會社工場	有川通	全四十一年二月
函館製紙會社工場	千代ヶ岱	全三十年七月
大西鉄工場	松風町	全四十二年六月
東鐵工場	異砂町	全三十年九月
有江鐵工場	東川町	全十八年三月
椎木鉄工場	西川町	全三十二年三月
星野鉄工場	東川町	全三十年三月
目黒鐵工場	鶴岡町	全四十一年九月
高田鉄工場	異砂町	全三十年五月
山村鐵工場	全	全三十七年五月
大村鉄工場	全	全三十年二月
組預鉄工場	全	全四十一年三月
北海道機械網株式會社龜田工場	龜田村	全三十六年八月
全會社松風町工場	松風町	全四十一年二月
函館米商合資會社工場	榮町	全三十一年四月
函館製米株式會社工場	臺場町	全四十年五月
山口鉄工場	西川町	全三十九年九月
大村工場	松風町	全四十三年六月
本間製あん工場	旭町	全四十一年四月
東出酒造場	鶴岡町	全十三年十月

函館毎日新聞社工場	富岡町	仝三十一年五月
北海商報社工場	豊川町	仝三十年一月
北海新報社工場	地藏町	仝二十二年六月
函館毎日新聞社分工場	會所町	仝四十二年十一月
弘業館印刷工場	惠比須町	仝四十三年四月
近藤ラムネ製造所	鶴岡町	仝四十二年四月
上原鉄工場	豊川町	仝四十年九月
濱岡製材工場	高砂町	仝四十二年一月
函館製材所	東雲町	仝四十二年一月
函館製あん所	東雲町	仝十六年八月
北海實業新聞社工場	辨天町	仝卅五年月不詳
函館日々新聞工場	地藏町	仝二十七年一月
小山酒造場	旭町	仝卅七年十一月
菅谷酒造場	香羽町	仝四十年四月
岩岸造船所	若松町	仝三十五年四月
佐々木鏥詰工場	地藏町	仝三十年一月
深川鐵工場	豊川町	仝四十二年十月
國永造船場	有川通	仝三十七年七月
函館燐寸製造株式會社工場	新川町	新築中
笹谷米穀精米工場	旭町	三十九年五月

○交通機關

(一)鐵道

明治二十八年二月函館小樽間鐵道敷設を遞信大臣に出願し二十九年二月更に函樽鐵道株式會社創立の認可を出願せしも許可せられず三十年四月に至り十八箇月以内に本免狀の下附を以て假免狀を下附せられたり然とも時恰も經濟界の不況に際したれば右期間内に株式の募集を爲すこと能はず其有効期間の延期を出願して許可を受け一面借入金を以て線路の實測に着手せり斯くて會社創立登記の日より起算し滿八箇年以内に敷設工事を竣工すべき條件を以て本免狀を下附せられしが當時經濟界の狀況尚ほ不振にして企業困難なりしを以て遂に第十六議會の協賛に依り一哩に付八千圓の國庫補助を受くる事となり三十五年六月起工し函館小樽両方面より敷設し函館本郷間は同年十二月落成開通し三十六年六月森熱郷間は同年十一月落成開通し三十七年九月全線の工事を竣り十月十五日盛大なる開通式を擧行せり尚ほ炭鑛線に連絡する小樽市街一哩一鎖は三十八年七月竣工運轉を始め總延長百五十八哩七十七鎖の開通を見たり此鐵道は四十年七月國有となり以て今日に至れり

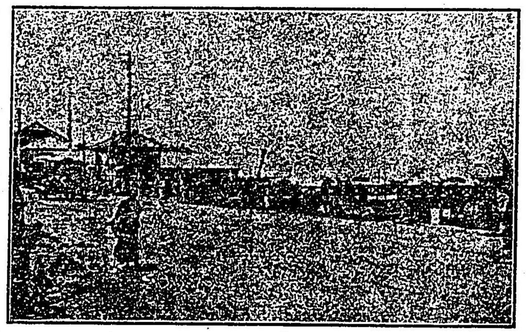
(二)連絡棧橋

若松町に新設せられたる棧橋は海陸の交通上大なる便利を與

へり從來當港に於ける渡船と陸との交通は皆解消によりたるに此棧橋は渡船を横付に爲すを得るを以て復た解船に乘降するの煩勞なく渡車渡舟相連絡して頗る便利なり

(三)馬車鐵道

函館馬車鐵道株式會社は明治三十年四月創立し軌道を敷設し三十一年十二月開業せり營業區域は函館區内並に函館湯川間にして其後區内乘車賃金二錢均一となし又增して三錢均一となせり四十四年中函館水電株式會社と合同して函館馬車鐵道株式會社を廢し新に函館水電株式會社運輸部と稱す又近く馬車鐵道を變更して電氣道鐵あすべく其筋の許可を得て計畫中に屬す



東濱町棧橋通

(四)郵便電信及電話

郵便及電信は年を逐ふて頻繁に利用せられ其機關として區内郵便局一等一、三等七、電信取扱所三、郵便切手賣下所七十三、郵便柱函、八十五あり電話は明治二十二年五月警察署監獄署裁判所仲濱町分署等の間に專用電話機を架設せるを始めとし三十二年に至り函館電話交換局を設置せられ現在自働電話所五電話番號は千三百餘あり

(五)區町村里程

	里町		里町
札幌區	七七、一〇	余市町	六〇、一六
小樽區	六七、三〇	增毛町	一〇六、三一
旭川町	一一二、三〇	稚内町	一五二、四六
岩見澤町	八六、五八	厚岸町	二一五、四二
岩内町	八六、四四	根室町	二二〇、三二
釧路町	一九九、四七網走ヲ經テ	俱知安村	五三、一六

(六)内國諸港哩程

	浬		浬
小樽港	二〇四	横濱港	五五一
長崎港	一、三六六	室蘭港	七一
新潟港	二七三	荻濱港	二六八
大坂港	九九一	直江津港	二三五
土崎港	一五三	酒田港	二〇五
門司港	一、二一七	下關港東西	一、一九八　九三〇
尾ノ道港	一、〇八九	敦賀港	五九〇

厩町村里程、内國諸港哩程

四日市港	七五一	博多港	一、二九八
伏木港	三九五	安古港	一八二
神戸港	九七九	元山港 馬關ヲ經テ	一、三九一
青森港	五六	浦港ヲ經テ	五七六
能代港	一三八	多度津港	一、〇六〇
唐津港	一、二九〇	仁川港	一、九三六
基隆港	二、一六三	釜山港 大坂ヲ經テ	一、二九九
		馬關ヲ經テ	一、〇八五

(七) 外國要港哩程

浦塩斯徳	六五四	上海 馬關ヲ經テ	一、八四九
牛荘	三、一二九	横濱ヲ經テ	二、一三六
香港	二、七四九	天津	二、八五九
布哇	二、四三〇	新嘉波	四、一八九
倫動	一二、八七三	マニラ	四、三九七

(九) 旅人宿

旅人宿の重なるものを擧ぐれば左の如し

迷三木	勝田旅店	東濱町	
キト	旅店	東濱町	停車場前
エビスヤ	旅店	停車場前	
キト星	荻原旅店	停車場前	
藤屋	旅店	停車場前	
九桝	村上旅店	實學校前	
九仙	旅店	會所町	
角上	旅店	會所町	

(九) 區內の道路

區內の道路は明治十一年十二年兩度の大火により其燒跡に改良を加へたる後樓を見て其殘部に改良を加へ若しくは新に開鑿したり即ち明治二十年火災の後西川地藏鶴岡三町燒失跡を三十二年大火の後東川西川地藏鶴岡三町燒跡を四十年若松町火災の後該町燒跡を三十五年火災の後鶴岡町燒跡を改修したるが如き三十六七年に於て大縄町より海岸町停車場に至る道路を開鑿したる如き四十年大火の後其燒跡の一部を改修したるが如き其主なるものなり

○新聞社

明治十年新聞紙を發刊せんと欲し伊藤錡之助其他同志を求め器械を購入し北瞑社を創立し印刷業を始め十一年一月より毎日定刊の新聞紙を發行し名けて函館新聞と云ふ是れ北海道に於ける新聞紙の嚆矢なり同年七月隔日發刊と改め後更に毎日發刊となす是れ今の函館毎日新聞の前身なり今現在の新聞社並支局左の如し

函館毎日新聞社　函館日日新聞社
北海新報社　北海商報社
北海實業新聞社　報知新聞社支局

法律新聞社支局　經濟時事支局

○娛樂機關

(一)函館公園

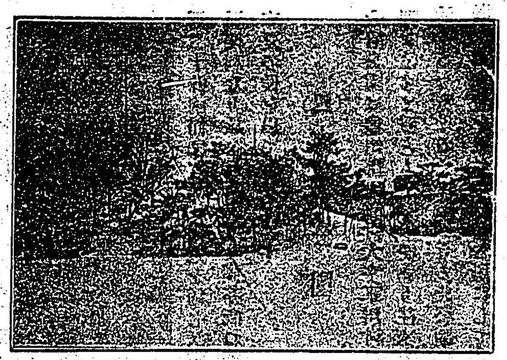
函館公園は明治十一年修築の後漸次修理を加へ爰に植栽せし松樹花木皆繁茂し遙見小右衛門の寄附植栽せる吉野櫻及び梅等亦生育し以て一層風致を添へ且つ皇太子殿下御慶事紀念の松安政年間露國寄贈の大砲函館圖書館其他觀るべきもの增加し亦明治卅四年八月　皇太子殿下行啓の砌り御野立所を建築し永久の紀念として保存す故に其體裁大ゝ整ひたり

函館公園（其一）

(二)水產陳列場

明治二十二年道廳ゝ於て公園内に水產陳列場を建築し翌二十三年落成す同年十二月從來の第二博物場を商品陳列場となし函館商業學校の管理に歸し二十五年三月更に第一博物場を交付し函館商船學校附屬商品陳列場と改稱す二十八年度に至り之を廢し區に於て三館を擧下を受け爾後區水產陳列場として專ら水產物を陳列す

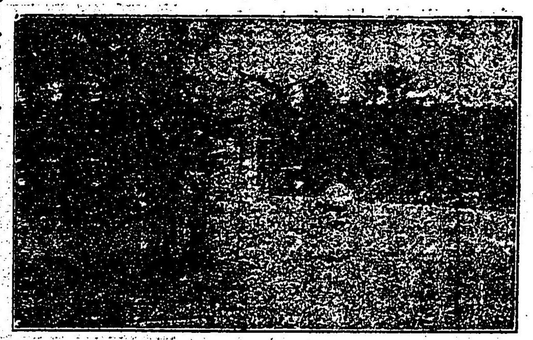
公園三十四年第三館を廢し第一館第二館を合せて今日に至れり



函館公園（其二）

(三)湯川溫泉

湯川溫泉は函館の東北東一里三十町にあり明治十九年の發見に係る是より先き越前の人石川藤七函館に移住十年郷里より突拔井の器械を取寄せ自家用井を穿ちしが湯川の地湯の澤湯の尻等の地名あり又鎭守神湯倉神と稱するより昔時必ずや溫泉あることを信じ明治十八年三月以來該器械を以て處々に突拔を試み枯据奮勵從事し遂に湯の尻官有地に於て成功し一時間湧出量四十七石に及び十九年十一月該溫泉使用の儀を出願し十二月許可を得たり是に於て官有溫泉を中央として圓形の公園を設け浴客の遊步場を充つるの計畫を定めしに村民及び函館區民此擧を喜び有志諮合し金七百圓



水産陳列場

を寄附して其修築を請ひ且つ競ひて其附近の地を購入せしより地價俄に騰貴せり

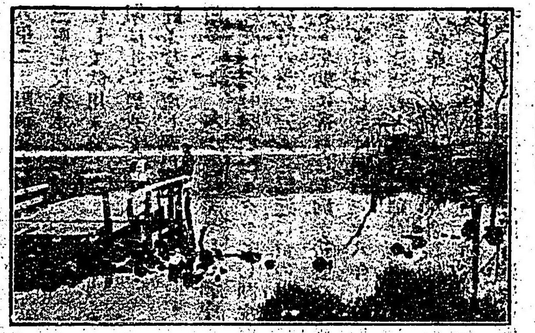
二千年官函館湯川道路を修築して幅平均八間とす既にして各町に人工掘鑿を施せしに處々に沸出し途に著名の温泉場となれり湯川温泉の地たる南方海に瀕し北東丘陵を負ひ閑靜にして風景佳なり現今戸數百二十餘函館より馬車鐵道を通じ又電信電話の設けありて交通便利なり旅舍八戸あり設備亦概ね整頓し四時浴客多し殊に春夏の候を以て盛なりとす

(四)大沼公園

大沼公園は龜田郡七飯村大字軍川村にあり函館の北東約十三哩二位すと雖とも嵐車の便あり往來容易なるを以て亦函館に於ける遊覽地の一に數へらる此公園は明治二十八年十二月北海道地方費を以て設けたる所にして其初め大沼小沼及び附近

山岳を豫定せる雄大なる設計なりしも差向き大沼小沼と定め其嶋嶼を園地に編入せり大沼小沼は相連りて瓢形を爲し其中部最も狹き所を「セバット」と稱し嵐車此處を渡る湖の周圍八里二十町面積九百三町七反歩水質清澄にして飲用に適し冬期は此に製氷をなす鯉ふなを産じ湖岸屈曲多くして大小の灣形をなし湖中馬嶼無盧嶋半島上悉く樹木繁茂し就中櫻水松イタヤ多し湖水東に流れ騒りて瀧となるを留の瀧と云ふ其附近に留の湯並に函館水電株式會社發電所あり北東に奇形なる駒ヶ岳聳立し風景清絶又壯絶なり公園の修築に關しては明治三十八年より四十三年までに一萬七千餘圓を投せしも僅に一部分の工事をなせしに過きず尚ほ今後漸次修築する斗畫あり旅舍數棟設備能く整ふ又遊船十數隻あり以て觀光の用に供す大沼停車場あり且つ毎年五月より九月に至る間公園假停車場を開き遊覽の客に便す大沼北方約十八町

大沼公園春色之景

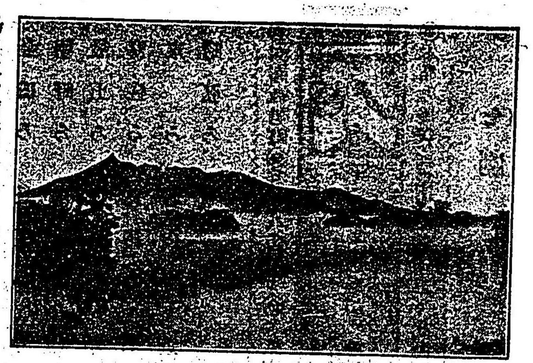


大沼公園小沼之勝景

蓴菜沼あり蓴菜を產するを以て名づく湖中數個の小嶼あり東方駒ヶ岳を望み風光清麗なり明治十四年聖上陛下御巡幸の際此處に御小憩ありて御賞覽あらせ賜ふ亦明治四十四年八月東宮殿下全道行啓の砌り御小憩あらせられ其凡光を御賞覽あらせ賜ひり當時の御野立所は「セバット」にあり永久の紀念として保存す

(五) 大森濱海水浴場

同場は外海に面する砂濱にして汀より百間を出てずして水深丈餘に及ぶ汀より約二十五間の沖に陸地と並行し百間を隔てゝ二個の浮標と此中央汀より五十間の沖に一個の浮標を設置し以浴場を劃す岸に假小屋を作り脫衣場に充て其一隅に淡水風呂を設けて浴後鹼水洗濯の便に供す救助用として一隻の小舟を備ふ同場は從來一私人の經營に係りしが明治四十三年より函館軍人團體育奬勵の目的を以て之が經營に當れり



大沼公園朝霧之景

(六) 遊廓

遊廓は從來蓬萊町及び臺町にありて一般民家と接續し風俗上に及ぼす弊害少なからざるを以て之を適當の場所に移轉せんことは區民の夙に希望せし所なるも經濟上其他事情のため容易に之を實行すること能はずしが四十年大火は兩廓を全部燒失せしめたれば當局者は之を機とし同年九月二十六日北海道廳告示第四百七十七號を以て區の東部なる大森町の一部に貸座敷免許地を指定し蓬萊町及び臺町の兩廓は四十一年二月限り廢止せられたり尙ほ同年十二月迄延期して其間に移轉せしめたれば期限內に移轉する能はざるものは一旦廢業したる上指定地に新築し四十二年十月までに元營業者全部移轉を結了したり現在の娼妓數は三百六十一人にして貸座敷は左の五十七軒あり

丸山樓　三桝樓　圓玉樓　いろは樓
角山樓　幾多ろ　田中ろ　第二丸山ろ
第二三桝樓　伊勢ろ　武藏野ろ　靜岡ろ
新盛樓　三河ろ　大川ろ　北越ろ
丸喜樓　幸龜ろ　杉本ろ　第二新盛ろ
菊世樓　金昇ろ　北海ろ　改新ろ
岩本樓　新山ろ　金波ろ　勇ろ
第二晴弘樓　金菊ろ　米大黑ろ　粂川ろ
泉樓　宮城野ろ　岩城ろ　大嶋ろ
金田ろ　長盛ろ　中村ろ　海老ろ
朝野ろ　萬年ろ　福榮ろ　盛金ろ
最上ろ　清嘉ろ　小金ろ　金昌ろ
喜盛ろ　丸高ろ　石港ろ　松月ろ
東ろ　若山ろ　迎陽ろ　永盛ろ
晴弘ろ

◉函館區旭町◉電話八〇九番◉金久宮崎味噌製造場精製◉
登錄商標 久 登錄商標 金久味噌
◉本品の發賣は數十年前にあり北海道最古の歷史を有す◉

（七）劇場

池田座寶町にあり舊一貫學校の箇所に在りて先代池田金五郎明治十三年官命に依り之を谷地頭に移せしか其年暴風雨の爲め破壞されしを以て再築まで現位置ゟ假設するの許可を得たるはそも同座の起源なり明治十六年之を改築し坪數百四十六坪を有し當港第一の劇場なり

大沼公園之景

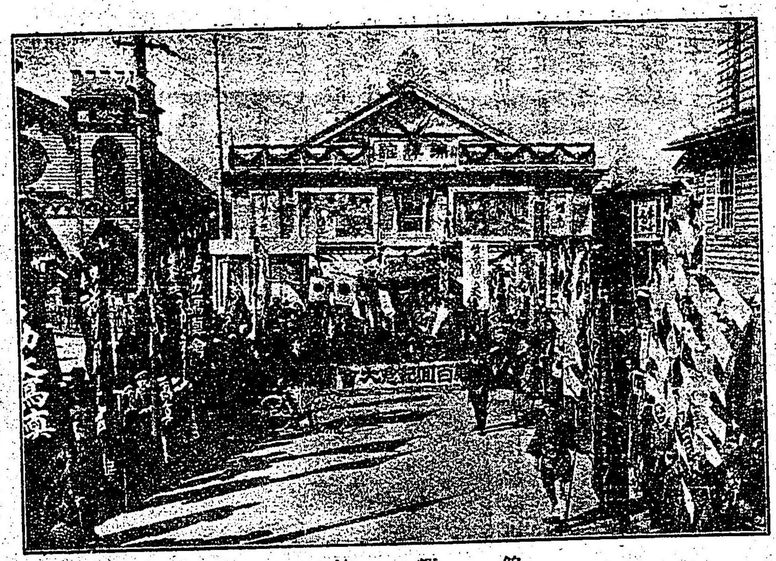
巴座東川町にあり明治三十年三月八日の設立にして最初合資會社にて組織されしも明治四十年五月ゟ至り資本金一萬五千圓の株式會社となせり

大和座　明治十四年頃の創立にして寶町にあり座主清水久次郎なり

函館座　大黑町にあり座主大澤龜吉死去の後桃井文夫の經營に係れり

若松座　若松町ゟあり創立當時共盛座と命けしも或る事情の爲め改稱す目下の經營者は小泉三狼なり

錦輝館　蓬萊町にあり明治四十二年一月の創立にしてエム



錦　輝　館

パテー活動寫眞の常設館なり館主は岩見永次郎にして内外設

備克く整頓せり

博品館　惠比須町にあり東京福寿堂特約の活動寫眞の常設館なり

(八) 寄席

錦　亭　勉強亭

大黒亭　辨天亭　**登樂亭**

(九) 藝妓見番

町見番　明治三十八年十一月の創立にして相生町3あり現在の藝妓三十二名半玉五名ありて見番主は神邊五兵衛なり

東見番　開拓使時代の創立に係り當區3於ける見番の鼻祖なり現在藝妓數は四十七名半玉十五名あり見番主は小林與兵衛なり

蓬萊見番　明治三十八年の創立にして藝妓十名半玉五名あり見番主は阿部九平次なり

巴見番

明治二十年頃の創立にして鍛冶町にあり上田仁太郎岡崎仁右衛門澤與吉田善次郎嶋崎イトの五名合同經營に係り現在藝妓は五十二名半玉十一名あり

(十) 函館料理屋業組合

同組合は創立明治四十三年四月にして頭取小林與兵衛副頭取

上田仁太郎にして會計一名監督二名理事八名より成る組合料理店は左の如し

丸福甲子	山キ求友亭	金半久須美亭
角中本庄	小林亭	みどり
金〆天新	東洋館	芳明館
洗心館	角△山田	巴鳥
藤本	一入川松川	わじまや
田村	角本櫻井	かくこま
大萬飯嶋	春駒	磯馴
天金	山久土橋	山〆小川
勝見家	常磐木	金久若山
茂り莊	福井家	三笠家
○伊勢	金吉村田	山〆一山田
丸キ古木	北海家	棒キ三戸
○〆宗原	山川押田	菊水
しまや	倉田家	角〆長谷
桝印濱谷	宇野丸	海月
都庵	五島軒	丸十外村
大新	豊川	扶桑軒
しぐれ	龜中	金ヨ佐藤
吉野屋	八百龜	松葉
あつま	福本	竹本
たつ美	二葉軒	林長館

明治四十五年度調

函館區商工人名錄

（物品販賣業）

業別	氏名	住所	電話
雜貨商	飯田八三郎	末廣町八二	六三六
寫眞業	池田種之助	惠比須町七七	九九
織物卸商	池田忠七	東濱町五一	八四八
土木建築業	伊藤龜太郎	谷地頭町五〇	一七三
器械鑄物業	伊藤福三郎	旭　町二三九	八〇二
皮革商	伊多波嘉一郎	地藏町五一	九八六
酒醬油商	生駒豐藏	音羽町四	八九九
靴商	生駒靴店	末廣町七九	九八二
呉服太物商	岩船峯次郎	辨天町六三	一六
旅人宿	岩佐旅店	會所町二四	二二〇
肥料雜穀商	岩出支店	仲濱町四	三六〇
物產商	岩崎岩次郎	幸　町四	四一〇
造船業	岩岸造船所	若松町一一四	一〇一八
物產商	岩堀鐵太郎	大　町四四	四八九
石炭販賣業	磯野出張店	東濱町三	八五五
米穀問屋	今井定太郎	春日町一五	二八八
海產商	五十嵐政吉	船場町二五	六四一
蕎麥屋業	石川清吉	末廣町九	一〇四三
雜貨商	石川由松	蓬萊町一五三	二八三
酒類仲買業	石黑龜太郎	西濱町三九	九一五
材木商	石塚彦四郎	眞砂町九	八七七
漬物商	石井榮太郎	大　町三一	二三二
米穀商	石山治三郎	辨天町三三	一三七九
木品問屋	井山久藏	辨天町二	七三七
物產商	井上竹治郎	惠比須町七三	二二五

米穀商	井守喜太郎	若松町三二	一二六七
藥種商	小林乙五郎	大町一	六二六
銀行業	柿本作之助	辨天町八三	九七一
和洋紙莫商	仲村金右工門	地藏町六二	一六九
運送業	齋藤重藏	辨天町四〇	三五二
物產商	瀨賀清吉	末廣町六六	七八一
鐵物商	佐々木與右工門	惠比須町三七	七四三
蒲鉾商	高橋武七	汐止町七	六〇三
紙文房具商	石垣喜一郎	汐止町二九	一〇一三
雜穀商	石川貞藏	西川町六	七九四
果實商	高橋利平	汐止町一一	一二〇〇
漬物商	岡田菊太郎	大町六	九七〇
魚商	小森鐵三郎	相生町八〇	一〇〇九
米穀商	荻原宏太郎	若松町四二	一八四
陶器硝子商	桝田支店	地藏町一七	六九六
砂糖麥粉商	目貫禮三	末廣町八一	四三八
物產商	岩崎常七	船場町二五	八二九
回漕業	服部佐吉	東濱町二	六八九
白玉製造業	村木重治郎	高砂町一八	九八四
米穀商	福水商會	鶴岡町三一	一三三三
物產商	石塚彌太郎	東濱町三五	三二三
米穀商	近藤秀左工門	鶴岡町二五	九六一
材木商	瀨崎初三郎	榮町二三一	九一二
仝	大村合名會社	眞砂町二	五〇四
和洋酒商	岩崎作次郎	地藏町二二	四二四
米穀馬糧商	田邊芳太郎	東雲町二四二	九九四

呉服太物商	加藤慶次郎	地藏町六三	四九
米穀商	竹內米店	相生町七六	六五二
回漕業	板村商船部	辨天町二三	四四九
綿ネル商	安達善次郎	鶴岡町一二	八九一
毛織物商	小野庄吉	西川町五九	一二〇九
紙商	吉田隆二郎	鶴岡町二八	一八五
海產商	小川彌四郎	西濱町一五	六四六
雜貨荒物商	小川支店	幸町九	八七五
米穀商	松田千太郎	西濱町三九	六五六
果實商	伊澤多美治	末廣町四	九一七
小間物商	池田義勝	蓬萊町一八	二九五
酒類販賣業	小山富藏	末廣町七八	一二七
食料鏞詰商	吉田ソワ	東濱町四二	三八一
海產商	井上元一郎	汐止町一五	六〇八
酒類雜貨商	三和安太郎	大町一〇	八四七
米穀商	鋪寶大郎	海岸町三九	二六二
蕎麥粉製造	山口啓助	眞砂町三	一二四二
果實問屋	勝木仁右工門	地藏町四二	一〇一二
物產商	田中三郎	幸町六	五八二
料理業	松川喜之助	會所町九	三〇八
仝	松川タミ	蓬萊町二	一〇一三
活版石版業	伊藤力松	會所町三三	一〇四四
船具販賣業	函館船具會社	東濱町八	二六四
委托販賣業	函館魚商會社	汐止町八	六一〇
精米業	函館精米會社	臺場町一九	四一
倉庫業	函館倉庫	仲濱町三	八二二

煉瓦製造業	函館製瓦會社	西川町一	三二一
製材業	函館製材所	東雲町二四二	七一七
製餡業	函館製餡所	東雲町二四二	一一三六
通船業	巴港組	東濱町一六	七七四
雜貨及代理業	ハウル社	仲濱町六	三二六
木材業	濱岡源助	若松町九六	八
同	濱岡重慶	東雲町二八二	一六二
海產商	濱根岸太郎	辨天町五四	三三二
米穀商	服部常次郎	船場町二五	八一五
肥具商	博善會舍	末廣町三三	六一三
料理業	登山定五郎	惠比須町二〇	一三一〇
小間物卸商	西澤音八	地藏町二八	二八二
書籍商	西堀久太郎	末廣町一七	五四六
同	西堀弘文社	同 町三二	六二〇
物產仲買商	丹羽常吉	大 町三七	八六八
運送業	平松貞三郎	若松町一一五	九六三
活版印刷業	高田安次郎	豐川町一	六六七
同	桶谷幸作	汐止町二五	六九五
旅館兼料理業	佐藤祐知	湯の川	六七六
吳服太物商	荻野清六	地藏町三八	一〇四八
菓子商	岡部榮吉	會所町五三	二七三
同	岡部次平	辨天町四二	一三三六
活版業	小野藤次郎	同 町三二	四〇
米穀商	山田房吉	東濱町四九	九五
牛乳搾取業	後甚平	東雲町二四二	一三二五
時任靜二		湯の川通	一一六七

海產商	藤堂利吉	豐川町五	八三〇
料理業	堀野內榮太郎	谷地頭町五二	一七二
物產商	德田安吉	船場町二五	一一〇六
仲買業	友染定治	香羽町六三	一二四七
倉庫業	共榮倉庫	眞砂町六	七七一
吳服商	藤村チヨ	末廣町七七	九一三
煉化製造業	工藤彌壽治	東川町二〇三	一八三
酒造業	東出長四郎	鶴岡町五八	三一六
和洋鏘詰業	佐々木定吉	地藏町三	四五九
雜貨商	濱崎治助	西濱町二三	二三四
米穀商	相馬理三郎	大 町一二	三七一
仲買商	相馬哲平	大 町二二	五四
醬油釀造業	笠川釀造所	東川町二一二	三六五
諸箱製造	松本比作	汐止町一二	二五六
凍氷業	山田啓助	眞砂町八	二五七
旅館兼料理業	林和三郎	湯の川	五三八
酒造業	大久保利助	龜田村內	八七
洋服裁縫業	大嶋憲吉	大 町二〇	九二
海產商	大野竹四郎	大 町二〇	一〇八七
精米雜貨商	大宅鶴吉	海岸町一一九	三三四
藥種商	大村新太郎	末廣町九五	四八四
回漕業	和田惟一	東濱町二一	六一四
牛肉商	川口福太郎	末廣町六七	四七
飲料水製造	川守田銀治	地藏町一	七八九
洋物商	勝田洋物店	末廣町七九	一六〇
料理業	勝見家	谷地頭町六九	七六三

地所建物仲立業	加賀屋慶輔	魯町一二	九五九
物産商	片谷勇藏	大町一三	一〇四五
倉庫業	為西倉庫	豊川町六三	九九〇
菓子商	松田助次郎	會所町四三	一三五八
蕎麥業	矢野重吉	青柳町二七	一〇八
洋服商	加藤喜七	西川町一五	一一三〇
製革業	小川長之助	末廣町三四	四七一
荒物商	木嶋豊治	同　町三二	七一三
鐵物商	進藤榮太郎	地藏町八	五五七
米穀商	太刀川善吉	西濱町二八	三四〇
石鹸製造業	熊谷經太郎	青柳町五五	九三〇
洋服業	片岡卯三郎	末廣町一一	二三七
柳行李商	松嶋松藏	同　町四八	七八五
牛肉商	小林佐平	同　町六二	九三四
料理業	佐々木新八	蓬萊町一〇	四五
砂糖敷物商	金森三星屋	末廣町四〇	二一
洋服商	金森洋服店	同　町九	一〇八一
洋物商	金森洋物店	同　町八	一五二
書籍商	金森魁文舍	同　町七	三四五
同	金森一二堂	同　町四〇	七六〇
賣藥業	金森回生堂	同　町九	一〇八二
洋品食料品商	森　屋	同　町一〇三	一〇八三
毒物商	久須美新造	蓬萊町一五四	一〇三三
米雜穀商	南塲吉次郎	地藏町五八	六五一
洋物雜貨商	竹田傳之助	惠比須町一五	三三六
時計商	加藤久太郎	末廣町七七	六六三

味噌製造業	金久宮崎竹四郎	旭　町二三八	八〇九
雜穀商	小林喜一郎	東川町一〇九	八四三
雜貨荒物商	與村吉五郎	末廣町一八	八〇七
硝子商	安齋仁吉	惠比須町五七	八六一
酒類商	金三菊泉堂	大　町二九	七五〇
硝子商	佐野鎭治郎	同　町一三	二九七
料理業	本庄タキ	蓬萊町一	二三八
西洋家具商	神永貞助	末廣町七一	一〇二四
米穀商	渡邊長藏	船塲町一二	八二五
米穀商	吉川榮吉	汐止町二〇	九四一
株式仲買商	澤商店出張所	會所町九	九四五
諸紙筆墨文具商	靜光堂江渡	末廣町二二	二〇八
賣藥商	德山二郎	會所町三五	
呉服太物商	宮田支店	地藏町五九	一九二
ミルクホール	末廣軒	末廣町九	
保險業	廣遂萊生命相互保險會社	谷地頭町一六	
旅人宿	エビスヤ旅館	若松町停車塲前	一〇一四
金貸業	共榮貯金株式會社	蓬萊町三	六八二
製綿業	高岡打綿會社	惠比須町九	一〇九一
貴金屬品製造	櫻井龍吉	相生町八	
米穀商	笹谷新太郎	旭　町二四〇	一〇五六
藥品卸商	千葉藥店	鶴岡町六三	一二七三
保險業	只木小五郎	蓬萊町一七	一〇八六
藥種商	佐藤宗助	地藏町五二	九一〇
回漕業	樋口多喜藏	東濱町二七	一五七
荒物商	橘谷巳之吉	辨天町四九	二四二

農物商	山村榮藏	惠比須町四三	一〇二四
吳服商	梅本覺太郎	鶴岡町二六	一一六四
葬具商	菅原金吉	惠比須町二七	七二六
茶商	常野商店	鶴岡町六七	三一五
酒類雜貨商	土谷忠吉	會所町三四	九二九
印判業	長尾支店	大町二〇	二六八
旅人宿	村上マス	寶町一	五一七
質商	梅川吉五郎	蓬萊町一	四九七
和洋紙商	山田金兵衛	地藏町六〇	六〇四
料理業	小橋龜三	東濱町四九	八三八
和洋紙商	新彌七郎	大町三八	二二四
雜貨荒物商	新與三郎	西濱町二九	四二五
料理業	鈴木柳作	蓬萊町一五二	一〇三一
鐵物商	三ツ谷鐵藏	末廣町八三	五七五
倉庫業	葛西倉庫	豐川町六三	八六六
印判業	松岡彫刻店	會所町四六	六〇七
毛皮商	松下熊槌	末廣町六三	六三三
文房具商	松邑文房堂	地藏町六五	一〇四二
書籍商	萬隆舍	同町九	五八
酒造業	管谷合名會社	香羽町六四	四六五
倉庫業	藤野倉庫	仲濱町八	二三五
米穀商	辻市太郎	東雲町二八〇	七三九
吳服洋物商	今非合名會社	蓬萊町七五	二三
下駄傘類商	森田千代	蓬萊町一三六	一四一
蒼麥業	大黑庵	鶴岡町五六	四六八
茶商	川口捨次郎	大黑町九〇	一〇一五

醬油販賣業	細野出張店	大町四三	五一六
米穀商	中川武右工門	地藏町三一	一〇一六
陶器商	森清馬	末廣町六一	七六七
蒲團商	武藤善七	同町四七	八四一
藥品商	白崎七左工門	地藏町三六	八五四
牛肉商	池谷伊三郎	鶴岡町二三	一五八
酒類商	國松源右衛門	寶町二三	六
鐵工業	目黑鐵工所	末廣町七	二三一
馬具商	松山吉三郎	末廣町二五	五五六
友禪太物商	柴田政治	惠比須町四〇	一〇五七
書籍商	西堀佐助	鶴岡町四六	一一五五
料理業	澤豐吉	鍛冶町二四	二三三
書籍商	片田淺吉	末廣町五三	一一二八
菓子商	田村松五郎	同町三六	七五六
料理業	小林與兵衛	蓬萊町一一	二六〇
ラムネ製造	近藤豐	鶴岡町一六	二一三
料理業	若山惣太郎	相生町六	二二
藥品商	國領平七	辨天町四一	六一八
菓子商	小網富太郎	末廣町三	六四四
鐵物商	寺井四郎兵衛	同町八七	三一九
和洋紙商	旭商會	同町三五	七七九
菓子商	苅谷鐵之助	汐止町七	八九三
材木商	石塚彦四郎	眞砂町九	八七七
物產商	酒谷小三郎	西濱町三五	二四七
書籍商	佐野政次	鶴岡町二六	八六三
海產商	三忠支店	東濱町一五	一二八

酒醤油商	林豊三郎	末廣町一〇六
旅人宿	荻原ハル	若松町一二七	一〇二二
仝	宗澤茂兵衛	東濱町二三	一四六
火薬銃砲商	三田銃砲店	末廣町	五五九
料理業	福田廣吉	會所町二九	八一二
仝	加藤豊太郎	蓬萊町七	六五八
仝	堀文治郎	末廣町三	七三四
菓子商	三木兵吉	松風町二六四	一三七三
錻物業	有江金太郎	東川町二一七	九五一
酒醤油商	林豊三郎	末廣町一〇六	一〇六
料理業	菊水	鍛冶町三〇	四五二
氷販賣	北原氷室	豊川町四一	四〇二
呉服太物商	北田儀助	海岸町三〇	六九二
運送業	今野養治	若松町一一七	三三八
米雑貨商	高橋清治	辨天町六〇	二五九
海産商	大坂仁三郎	豊川町八	一〇八四
酒類商	宮石八太郎	若松町七三	一二三五
味噌製造業	佐々木藤太郎	龜田村内五八	三七九
薪炭商	村岡商店	若松町一一二	八六七
海産商	嶋村初太郎	船場町三	九六四
料理業	まや	鍛冶町二六	五六〇
旅人宿	下田長之助	會所町一一	二一九
荒物商	修理商店	末廣町二三	八〇一
洗濯業	澁谷力藏	元町二〇	一一八六
公債株式賣買業	佐野常次郎	相生町一	二五
肉商	進藤吉三郎	鶴岡町五〇	一三四二

荒物商	篠原七郎兵衛	蓬萊町八二	一三五六
藥種商	野中藤松	末廣町五七	六三二
運輸仲買業	平出喜三郎	仲濱町一八	三五六
鐵葉細工業	平澤幸太郎	相生町一三	五二四
麥酒販賣	麥酒販賣函館組合事務所	鶴岡町六六	三六八
海運業	日高滊船會社	西濱町三九	七一六
美術造花商	檜枝和七	東濱町三三	三九六
毛織物商	姫岩秀治郎	西川町五九	六九三
銀行業	百十三銀行	末廣町一四	四四
倉庫業	辨天倉庫會社	新濱町六	四五六
運送業	内國通運會社	東濱町二二	一三二二
仝	米林運送部	若松町九	八三一
小間物商	齋藤修平	地藏町三九	九三
仝	加藤文五郎	末廣町九四	四三六
藥品商	草刈元次	鶴岡町三一	八九四
仝	二十銀行	船場町二一	二六六
銀行業	日本銀行支店	末廣町一	三五四
仝	拓殖銀行支店	船場町二二	六三
仝	函館銀行	末廣町九七	三六二
仝	函館貯蓄銀行	仝町一四	五二三
造船業	函館船渠會社	辨天町八八	三一四
電燈電力業	函館水電會社	會所町四〇	一〇三
委托商	函館魚商會社	汐止町八	六一〇
煙草販賣商	煙草元賣捌會社	末廣町四五	五四七
米穀商	服部常次郎	船場町二五	八一五
質業	長谷川清藏	大黒町七三	二五八

海産商	西出孫左衛門	西濱町一九	五六
物産商	丹羽常吉	大町三七	八六八
穀商	片桐吉次郎	富岡町二	八六〇
回漕業	大澤卓郎	東濱町一五	四一七
物産商	後甚平	東雲町二四二	一三二五
仝	德田安吉	船場町二五	一一〇六
酒類販賣	千代盛事務所	辨天町五九	九五七
洋服業	三浦洋服店	末廣町四一	一〇一〇
物産商	川森安治	豐川町二	三三五
旅人宿	勝田鎭藏	東濱町一五	一〇六一
海産商	森卯商店	仲濱町一三	四四八
牛肉商	山田龜吉	東濱町四五	二一八
洗濯業	森地由三郎	大町四五	一二四五
物産商	廣谷源治	富岡町五	四八
菓子商	千秋庵分店	末廣町二四	五五
仝	千秋庵末吉	蓬萊町一二	九七
陶器商	關兵之助	大町三五	六二八
菓子商	杉村米藏	相生町一〇一	二二九
木材商	瀨崎初三郎	榮町二三一	九一二
土木請負業	鈴木仙藏	谷地頭町七九	四六四
金貸業	杉浦嘉七	汐見町一七	三三九
飴製造業	砂子初二郎	大町三二	一一〇四
硝子商	鈴木商店	若松町二八	三七三
料理業	森谷庄太郎	蓬萊町一四〇	五一三
荒物卸商	百瀨合名會社	鶴岡町七一	九五二
温泉旅館	福浦ギヨ	湯の川	三五一

茶商	小林吉太郎	惠比須町五九	一二一五
青物商	森國太郎	東濱町九	一三〇八
酒販賣業	平松松平	若松町七	一三〇四
すし業	伊勢德次郎	大黒町四〇	一一一五
肉商	鎌田善三郎	末廣町一二四	九五四
仝	秋田伊之助	地藏町五五	一三一
仝	九田順衛	青柳町二二	四〇九
仝	正岡近藏	若松町九七	九五四
仝	進藤吉三郎	鶴岡町五〇	一三四一
物産商	嶋松菊	船場町二一	九六四
仝	白濱隆	榮町二三一	一二七九
海運業	白鳥助藏	駒止町二〇	七八六
果實商	白戸政治郎	地藏町六六	五〇七
味噌醸造業	三星商店	小舟町七	七三二
油商	水谷喜右衛門	鶴岡町三二	一二六四
染業	奥村誠一	會所町四一	一三三一
雜貨商	三輪竹次郎	幸町九	三七〇
雜穀商	宮本菊二	東濱町四六	一二〇六
酒類商	宮石八太郎	若松町七二	一二三五
米商	三浦佐一郎	東川町二二〇	一二九六
籠製造業	宮崎末吉	東濱町五六	二七八
質業	目黒萬次郎	東川町一一三	一一五四
海運業	郵船會社支店	船場町一九	一三七
海産商	張尊三	仲濱町六	四四三
仝	大場仁三郎	豐川町八	一〇八四
味噌製造	喜多村峰吉	榮町二二七	九五八

雜穀商	喜多村峰吉	地藏町一	九一八
米炭商	川尻菊次郎	相生町二一	三九四
料理業	鎌田ヒデ	蓬萊町二三五	七九二
道具商	木嶋榮治	西川町六二	九九一
履物業	新井重吉	若松町七七	一一七七
鷄卵商	北村爲藏	蓬萊町八一	九八
通船業	山田清二郎	東濱町一〇	一一
藥種商	金田一健次郎	地藏町六六	二六九
雜貨商	山崎作藏	辨天町六四	七三七
果實商	高田豐太郎	地藏町一四	六〇九
旅人宿	河面三代吉	會所町四二	八七三
海產商	佐野乙五郎	若松町一一五	一一七〇
同	宮川太郎	辨天町三〇	九三八
	佐々木米吉	船場町三五	四八一
給水業	佐々木市造	辨天町	五六六
時計商	佐藤寅藏	末廣町九九	一一八三
海產商	佐々木平次郎	辨天町一七	五五
同	佐藤和藏	汐止町九	一〇二九
同	桝清次	魯川町四六	八三七
回漕業	坂井正義	會所町一五	一一八七
物產商	相川四郎	東濱町五六	八三三
運送業	前田利一	同町一二	三七〇
染商	赤坂源助	相生町一八	一七七
公債株式業	鳥尾文右工門	大町一三	七九九
藥種商	網塚忠兵衛	仝 町三六	一三〇
洋服商	新井光藏	末廣町九六	七二八

料理業	佐々木德次郎	蓬萊町二一	七〇六
海產商	寺尾庄藏	松風町二七八	九一六
保險業	帝國生命保險會社	會所町三一	四四七
回漕業	吉村清吾	仲濱町一二	一一六〇
賣藥商	國領平七	辨天町四一	六一八
古鐵物商	小池藤五郎	豐川町四七	六四五
海產商	小杉良吉	仝 町一	四一一
海運業	小泉新一	末廣町九	一九四
書籍商	小嶋千代松	地藏町六一	八一〇
物產商	小嶋久次郎	東濱町五七	七二三
茶商	小西清吉	末廣町二九	四六三
砂糖麥粉商	小西重太郎	地藏町二三	九六
寫眞業	小林健藏	大町三四	一三五四
金物商	小林貞一	仝 町四三	一〇四九
肉商	小林定吉	東濱町四九	九三五
小間物商	兒玉松之助	地藏町六一	二九二
解通船業	岡田幸助	豐川町五六	六九〇
足袋商	武藤彌助	西川町七〇	一三三〇
船舶食料品	藤井清太郎	末廣町一〇八	六一
料理業	上田仁太郎	鍛冶町二一	五三九
仝	棧敷ノシ	蓬萊町一三九	五七六
菓子商	戶田富太郎	大町二八	一三一九
軍隊用達業	村川安藏	惠比須町七三	七四四
小間物商	藤代豐治郎	西川町六三	一三五九
旅人宿	伊藤辰四郎	若松町二三	五三二
物產商	藤井利三郎	元 町四一	一〇二

海産商	藤井兼吉	仲濱町二三	五二七
仝	源德號	仝 町六	二六
仝	源泰永	仝 町六	三八三
土木請負業	村榮太郎	末廣町八	八三六
料理業	高橋トメ	陸奥町一三七	一一九四
濱物商	石田ツヤ	惠比須町七四	一一七六
米穀商	丸谷金太郎	榮 町一〇一	五九三
昔籍商	龜井源藏	惠比須町一七	八二〇
漁夫周旋業	村田與太郎	寶 町一	一〇九六
漁網商	鈴木漁網店	末廣町八六	九四四
糸組物商	九平糸店	惠比須町	
農產種苗商	原田榮太郎	松風町二六	
菓子商	野村七三	鶴岡町	
鑄物業	棒木鐵工所	榮 町	
雜貨荒物商	平岡商店	若松町	
呉服太物商	寺井德三郎	大黒町一〇二	七一二
旅人宿	堀川甚太郎	汐止町二一	一一九五
鐵物商	越前屋源藏	東雲町三四一	二二五五
太物卸商	立川甚五郎	地藏町二〇	四五七
紙茶商	高瀨久吉	末廣町五五	七〇二
酒雜貨商	鞠澤兼造	鶴岡町一一	二三九
仝	前側末松	汐止町二一	二二四二
蕎麥業	瀨戸鐵藏	辨天町六六	一二五七
仝	大山ヤキ	若松町九	二八七
雜貨商	西本三太郎	辨天町三〇	三八五

旅人宿	西村タケ	東濱町四一	一三九
仝	下川原留吉	仝 町九一	一二五八
仝	福原新次郎	汐止町二四	九六六
物產商	小川佐助	船場町三	三四九
繩莚商	岩見慶七	船場町二五	六二四
材木酒類商	本間四郎治	西濱町五	一〇六二
銅器製造業	本間與作	地藏町四〇	七九五
旅人宿	千葉開治郎	東濱町四八	六八一
海產商	柳田一郎	辨天町一	五四五
布團商	中直作	西川町六三	一三八五
米穀商	中川榮吉	若松町五	一〇七二
釀造業	中村諭次郎	鶴岡町三〇	九四三
物產商	武內時三	東濱町四九	四四四
釀造業	今井辰太郎	旭 町二三六	四二
雜貨商	村五郎	若松町一	一二三三
酒荒物商	河合清太郎	地藏町四七	一八
株式仲買業	長岡大助	末廣町一〇	九八五
雜貨商	奥寺仁三郎	西濱町三四	二七一
海產商	桂 久藏	辨天町三九	五五〇
洋服商	新井光藏	末廣町九六	七二八
旅人宿	桃木アヤ	會所町一〇	二四二
鍛冶業	瀧澤兵太郎	末廣町七〇	一二七七
料理業	外村與三吉	同 町五九	九三七
物產商	田邊顯夫	東濱町一	一三四
運送業	齋藤清七	同 町三〇	八六九
回漕業	二立社	同町	

業	氏名	住所	番
麥商	田村イク	大黒町八五	九八七
肥料委托商	小笠原金次郎	辨天町三八	五六七
雜穀商	奥津忠	仲濱町二一	五四一
砂糖麥粉商	小嶋又次郎	末廣町九九	五一九
麥業	大黒庵	鶴岡町五六	四六八
同	布袋庵	末廣町六九	四三四
米穀商	上田初吉	東雲町二四二	一一一〇
牛肉商	能登川巳之助	松風町二七七	一三〇五
肉商	古旅曆藏	西川町五	六二
海產商	鹿野常次郎	豐川町四	五〇九
雜貨商	佐藤四方吉	鶴岡町五九	一一四〇
鍛冶業	池田勝右工門	豐川町三五	七七三
金物商	重松支店	末廣町一四	八〇六
吳服太物商	奥村元三郎	西川町六〇	七九八
家具製造業	佐野信敏	惠比須町五一	八九五
麥商	吉川平太郎	青柳町三	一一二
茶商	三上彌三郎	鶴岡町五八	一三四六
船舶食料品商	內川源作	東濱町二八	一〇九二
雜貨商	阿部文之助	大森町三三	一一七一
米穀酒商	今井定太郎	西濱町二四	一六四
仝	新井ユキ	同町一八	三〇二
醬油商	阿部祐三	惠比須町三四	五八八
吳服商	塚本富太郎	若松町五八	一〇八九
染物業	能登染工場	東川町六四	四六
果物商	澳政楠	西川町一〇九	五九二
建具商	山本猪之吉	末廣町三七	九四七

業	氏名	住所	番
麥商	伊藤明	末廣町二〇	二八九
米穀商	伊勢田支店	東雲町二七九	一二九〇
同	伊勢田卯三郎	同町二八〇	七三九
雜貨商	近藤磯次郎	東濱町四八	二九六
米穀商	伊勢田卯三郎	地藏町二	一五六
雜貨商	井筒榮次郎	鶴岡町五二	一五一
荒物商	若狹半兵衛	同町五一	五八九
海產商	安達支店	船場町三	三六四
水產業	藤野支店	東濱町四	二三六
漁網商	秦清八	末廣町九〇	三二二
質業	龜井藤松	同町五九	二八八
米穀商	神垣種吉	旭町二四〇	一〇九
酒雜貨商	上村勘一	海岸町九九	六七七
ラムネ製造業	廣安幸次郎	東川町一一五	一〇三七
料理業	古木イワ	鍛冶町二七	一四一
疊建具商	眞壁仁太郎	西川町六六	七四一
古着商	眞船由三郎	豐川町一一	一一六
印刷業	間瀨八郎	會所町一八	一一三二
肥料商	間瀨翁太郎	大町一三	八七四
回漕業	前田船舶部	東濱町一四	五三五
洋品商	松本富治	鍛冶町三〇	一三七一
料理業	松川喜之助	會所町九	三〇八
海產商	松本茂兵衛	船場町一六	二五二
物產商	松田タカ	豐川町五三	二三二
米穀商	高見長松	東雲町二八二	一〇六三
物產商	小川長吉	幸町七	一二五五

昆布商	山口喜代松	東雲町二四一	一一五八
荒物商	山本徳次郎	東川町一七六	七八二
小間物商	中山與三郎	大黒町八三	四八七
米穀商	長谷川吉藏	蓬萊町一五四	三八六
米穀商	吉村良藏	龜田村内	八五
米穀商	村田リノ	鯵潟町三七	九四八
昆布商	畑中熊吉	榮町	二
酒雜貨商	高田合名會社	音羽町六七	七七八
呉服太物商	恩賀合名會社	地藏町五六	二五〇
海産商	阿部重四郎	鶴岡町三五	九二五
運送業	佐々木市造	眞砂町七	一〇七五
荒物商	山口重次	寶町二五	六八七
物産商	佐々木忠兵衛	船場町三	七一
呉服太物商	黒江定七	鶴岡町五七	六〇五
鮮魚商	中西仁太郎	汐止町九	五五四
京染商	中尾支店	末廣町一一二	六三〇
染物業	石塚榮重郎	仝 町六五	一二六三
質屋業	吉本喜七	豊川町一五	九九五
物産商	大道和作	幸 町一	七四七
料理業	土橋多次	蓬萊町一九	四二二
米雜穀商	安井理平	仲濱町二九	三九五
雜穀商	船山清藏	仝 町二	七〇四
物産商	加賀與吉	豊川町一	八七八
荒物商	大越商店	仝 町五三	三四二
米穀商	修理商店	末廣町二三	八〇一
昆布商	宮崎末松	東濱町五六	二七八

米穀商	工藤英吉	地藏町三〇	三三
食料品商	塚越市太郎	東濱町二三	八三九
鼻緒商	石田恒藏	鶴岡町二〇	一三三五
荒物商	田畑辰次郎	西濱町二八	七六六
呉服太物商	外山平治	地藏町二一	二〇四
雜穀商	友染勇吉	末廣町一一	四九四
荒物商	小森商店	東川町二四一	二四三
物産商	辻仲商店	汐止町二	八八五
旅人宿	辻仲きん	松風町二五九	五八四
雜貨商	渡部常吉	末廣町三〇	四六九
酒醬油商	生駒豊藏	音羽町四	八九九
疊製造業	渡邊邦平	西川町六六	一〇九三
物産商	渡邊富吉	豊川町一三	一〇六八
砂糖商	伊藤藤太郎	地藏町五三	四六一
物産商	山崎吉次郎	船場町二一	一二六六
海産商	奥田與太郎	幸 町六	七四二
昆布商	藤井清五郎	地藏町五	一一八七
米穀商	下條九平太	若松町二六	一〇七八
酒類商	白井秋作	辨天町三三	五九六
物産商	伊三郎	豊川町六	九一四
酒雜貨商	齋藤松太郎	地藏町四八	一〇一
海産商	田中仙吉	豊川町四六	一三二六
硝子商	横田佐吉	西川町七五	五八五
靴製造	山田和佐造	鶴岡町二九	三四三
果實商	坂本衆吉	末廣町五七	七二二
酒類雜貨商	松之助	地藏町四三	六六二

米穀商	中田力藏	龜田村内	八六
仝	井上利三吉	相生町六四	一二〇四
菓子商	柳田永助	辨天町六二	一〇五八
海産商	矢本貞吉	東濱町三六	四三七
仝	八幡三次郎	仲濱町四	一一〇五
倉庫業	安田倉庫	豊川町五六	三三一
味噌製造業	安井忠作	同　町四二	一三八四
製本商	山崎市太郎	東濱町二三	一三八三
酒醬油商	山本辰治郎	惠比須町三三	一三一五
物産商	山那虎吉	辨天町二三	一〇二五
鼻緒商	山口與五郎	地藏町一三	一二八九
物産商	山口喜平	仲濱町三一	七〇九
煙草商	栗山直德	會所町二〇	一三一七
仲立業	栗山定吉	幸　町一	一一三八
料理業	松本周助	末廣町一三	一二六〇
仝	梅井クラ	鍛冶町四五	六三八
米穀商	工藤吉藏	若松町五〇	五九九
仝	工藤嘉七	地藏町二六	五〇三
運送業	工藤海運部	仲濱町六	一四三
牛乳販賣業	黒井佐之助	松風町二六〇	一三〇一
雜貨商	黒丸留藏	惠比須町三三	七九一
物産商	松澤支店	東濱町五二	六一六
米穀商	野澤千代太郎	大森町一二	一二〇二
仝	上野久吉	富岡町一〇	一二七四
物産商	鈴木賢正	相生町一〇二	四九一
材木商	浦田久吉	眞砂町四	四六〇

蕃司業	鹿野伊三松	末廣町三五	八六五
酒雜貨商	梅津福次郎	仝　町五二	三一七
物産商	高橋松太郎	大黒町四三	五七二
仝	村田榮吉	船塲町二一	三四六
支那料理業	蘭　亭	末廣町四	四九二
靴業	並木鐵太郎	大黒町三八	一三一三
米穀商	鍋嶋彌平	新濱町四	一三三八
呉服商	中西榮藏	豊川町三六	一九五
物産商	中村三郎	東濱町三九	一〇七三
太物洋傘商	中村常次郎	末廣町八〇	八〇八
呉服商	成田嘉七	大黒町五三	七二四
鼻緒商	石橋與三郎	末廣町六六	九二四
製餡業	本間菊次郎	旭　町二四〇	一一四二
雜貨商	塚田義次	蓬萊町七九	一三六一
肥料製造業	塚田才次郎	仝　町一三七	一三〇三
呉服太物商	塚本富太郎	西川町一一	一二六一
米穀商	土橋藤市	大　町二九	八三四
料理業	勝浦タマ	蓬萊町三一	六二三
米穀商	高橋善平	西濱町三六	二七
材木商	村山又郎	小舟町一〇	一〇九七
船具商	小林貞一	大　町四三	一〇四九
行李商	小嶋豊吉	仝　町三六	一〇九七
物産商	高田吉司	東濱町四八	一二二三
履物商	山村榮藏	惠比須町四三	一〇二四
雜貨商	大橋喜太郎	西川町五一	八五七
荒物商	橋谷己之吉	辨天町四九	二一四

洋物商	美馬史郎	大町二七	一三七二
荒物商	大橋喜太郎	西川町五一	八五七
藥種商	佐藤宗助	地藏町五二	九一〇
海產商	佐藤重五郎	豐川町一〇	六七〇
仝	森又吉	仝 町一六	一八二
質業	高森忠藏	蓬萊町二三	一二二〇
物產商	高杉藤三郎	豐川町五〇	六七九
米穀商	高嶋佐吉	仲濱町三二	九六五
海產商	高田理作	汐止町七	一〇七
菓子商	高橋庄治郎	惠比須町五八	一〇八八
土木請負業	高橋浦治郎	榮 町二二三	六八五
米穀商	高橋庫太郎	東濱町七	五五八
書籍商	高木捨次郎	若松町一二	一〇九五
回漕業	高橋庄次郎	龜田村內	四一二
米穀商	種田直右工門	鶴岡町七	八五六
仲立業	谷野猪之吉	東濱町三七	一二九
荒物商	澁野惣次郎	小舟町二二	一三一八
海產商	谷津彩次郎	曙 町九	七三八
物產商	武內時三	東濱町四九	四四四
火藥商	武富平作	谷地頭町二	七一九
牛乳業	武彥七	東川町二四二	三三〇
土木請負業	竹內新太郎	靑柳町七三	一二〇八
洋物商	竹田柳太郎	末廣町五九	二九九
米穀商	田卷庄次郎	龜田村內	四一二
肥料商	田中武兵衛	末廣町一	一一四
寫眞業	田本寫眞館	會所町一五	一一九
仝	田本繁	末廣町六八	九九九

繩莚商	田中友次郎	仲濱町一五	九四九
水產業	田中正右工門	天神町七五	三四七
物產商	田中幸四郎	東濱町五六	二四四
周施業	吉村清次郎	仝 町四九	一〇三九
旅人宿	吉川米三郎	相生町七	六一九
料理業	長谷部吉平	東濱町八	四二三
土木請負業	吉田辰巳	天神町一〇一	四〇三
米穀商	横山喜一郎	仲濱町二五	一七二
菓子商	平田常次郎	汐止町二	五一八
炭商	戶田幸吉	相生町一八	一一〇〇
仲立業	土方惣太郎	馨 町九	一一六三
海產商	高岡新助	東濱町四八	五四九
味噌製造業	國彙藤平	旭 町二一	五三一
仝	茅原勇吉	西川町一〇〇	八一九
鐵葉業	高井宗太郎	大黑町四一	二九一
運送業	西谷健太郎	若松町一一七	一〇二一
海產商	石井鐵太郎	汐止町七	九一一
雜貨商	川守田良助	錺潤町四四	一九三
旅人宿	太田ジュン	曙 町二	一三二八
雜貨商	服部豐治郎	海岸町一九	七五二
洋物商	鈴木覺造	汐止町一二	一一九九
海運業	澤口啓藏	靑柳町六〇	一二四〇
運送業	高嶋佐吉	船場町二	一六八
米穀商	佐藤善藏	仲濱町三二	九六五
木炭商	汐止町一四		一二九七
造船業	古伯石松	鶴岡町三四	一〇六七

雑貨商	高嶋章造	音羽町三六	一三八六
仝	松田永治	寶町三九	一〇九八
雑穀商	小林喜一郎	東川町一〇九	八四三
鶏卵商	藤村正次郎	旅籠町一	一一八四
時計商	加藤久太郎	末廣町七七	六六三
造船業	佐賀久七	大森町八	四八六
水産業	藤村駒吉	台町八	三三六
着具商	西川重太郎	旭町二四〇	八〇二
葡萄商	近江久治	西川町三八	一三二〇
蕎麦業	戸村榮次郎	地蔵町二三	六五五
仲買業	加賀美茂平	青柳町七七	八一八
繩莚商	金丸善太郎	仲濱町三〇	四二八
保険業	金澤彦作	富岡町五	五二
洋品商	川口金次郎	船見町八二	一二七〇
米炭商	川尻菊次郎	相生町二一	三九四
米穀商	和田芳治郎	西濱町三七	七八四
料理業	輪嶋ミツ	蓬萊町一	八五三
雑貨商	渡部梅吉	相生町八五	一三六三
古着商	桶與三右衛門	西川町五九	一二九二
馬具商	岡本康吉	末廣町二	四二一
米穀商	西口宗一	仲濱町二九	五〇八
回漕業	筑前善次郎	仝 町一四	二六七
寫眞業	村山弘	蓬萊町	
かもじ小間物商	柳原商店	寶町二七	
寫眞業	梅本彌介	相生町あさり坂	
車製造業	太田忠吉	音羽町一四	

料理業	志賀イク	蓬萊町五	二七三
繩莚商	川口商店	船場町五	八五一
回漕業	川口昌三	仲濱町一〇	四〇六
旅人宿	樋口重親	若松町一一七	四六七
荷造業	高木勘吉	辨天町二五	三九〇
料理業	石井キク	大森町三三	六九
小間物商	新田完一	末廣町二六	二六一
料理業	櫻井長太郎	蓬萊町一〇九	七一八
米穀商	鈴木カヂ	東雲町二四二	五九七
物産	土田保吉	汐止町五	三八七
運送業	岡村小三郎	船場町一〇	二四六
物産商	前田嘉右衛門	東濱町二	二一二
点燈業	橋本與三松	榮一町二七	一三四五
海産商	東浦幸次郎	東濱町三一	一二五
物産商	金子朔太郎	船場町一三	一一八〇
仝	谷藤文造	豊川町四二	一〇五九
毛剃製造業	林梓	末廣町一一四	二一一九
雑穀商	宮崎榮助	末廣町三九	七一四
雑貨商	向井嘉吉	恵比須町三四	四一五
材木商	戸山龍次	若松町九一	九九五
酒商	森田七藏	豊川町一九	九五〇
竹商	堀合源助	仝 町九	二四〇
旅人宿	中橋榮作	東濱町四四	八九〇
物産商	毛利喜兵衛	豊川町一四	八六四
凍氷酒商	金谷清五郎	豊川町一〇	五四四
物産商	五十嵐平次	大森町二〇	一一〇八

洋酒罐詰商	佐々木耕作	惠比須町
活版業	龍茂	音羽町
紙箱製造業	中井豊作	惠比須町五六

資本金拾萬圓

諸準備金三百九十六万六千餘圓

（責任準備金ハ純保險料式）

保險契約額三千十五万六千餘圓

創業以來拂渡シタル保險金額二百四十八万七千五百餘圓

仁壽生命保險合資會社

明治廿七年九月設立

代理店

金澤彦作

電話五二番

函館區富岡町五番地

◉當會社ノ保險契約人ニハ解約價額卅圓以上ヲ有スル保險証券ヲ擔保ニ貸付金ヲ爲ス

帝國四分利公債購買案內

我帝國の公債約二十六億餘圓の內十五億餘圓は外國債にして殘る十一億餘圓の內國債も亦漸次外國人の手に渡り其額數億圓に上り之が爲め年々元利金の償却に要する正貨の海外に流出すること夥しく寔に歎かはしき次第であります去れば本社の規定せる方法に依り購買せらるゝ諸君は一面少許の掛金を爲して不知不識の間に契約額面の公債券を取得せられ一面正貨の海外流出を防ぎ從て帝國の公債政策を助くると同時に自己の利益を圖り得る譯でありますから大は國家の爲め小は子弟の修學基金や婚嫁基金を造り又不時の災難に備ふる爲めには本社の購買方法より外に良策はありません

營業種目

一、外資ノ紹介社債ノ保證及證券ノ管理
二、有價證券ノ賣買貸借及受渡代理
三、諸會社ノ調査報告

東京市京橋區日吉町壹番地

帝國公債信託株式會社

電話新橋 長九三六番 一二一八八番 一三八九番

振替貯金口座 東京三六一七番
電信略號（テコ）

社長 塩田奥造
監督 關直彥
法律顧問 齋藤二郎

北海道函館區蓬萊町百二十七番地

北海道支部

電話一四一番

地球印製綿製造元

資本金貳拾萬圓

高岡市榮町
高岡打綿株式會社
商務用 電話五三番
工務用 電話二三五番

金澤市袋町
仝 金澤支店
電話長一三〇番

小樽區港町
仝 小樽出張所
電話九九八番

函館區惠比須町
仝 函館出張所
電話一〇九一番

露領浦汐斯德港
仝 浦汐出張所

内科一般

富安醫院

函館惠比須町十六番地

電話千百十二番

内外小兒科

中山醫院

院長中山復四郎

函館區青柳町

電話五三八番

日本生命保險株式會社
函館代理店
只木小五郎
函館區蓬萊町
電話一〇八六番
振替口座東京二一二三六番

質商
商號 越後屋
梅川吉五郎
函館區蓬萊町一番地
電話四九七番

佐々木耕作商店
特約大販賣店
函館區惠比須町
電話一二二番
水雷艇印シヤンペンサイダー
札幌麥酒札幌葡萄酒
雜貨○菓子類○官營煙草○
洋酒○食料品○諸雜品類○

函館區東雲町配電所構內

函館製材所

電話七一七番

材木類卸小賣
製材物及板類　函館區眞砂町九番地
杉桧目類
屋根桧類
其他造作物各種
土木建築請負
器械工場設置あり急速御需に應ず

石塚商店

電話八七七番

營業種目

和洋皮革類、製靴原料品、馬具原料品、鞄原料品、其他革具製造諸道具並ニ附屬品一式

製靴各種、乘用馬具各種、農用馬具各種、馬車馬具各種、鞄類各種、附屬小間物類、其他革具一式製造卸小賣

函館區地藏町五十一番地

販賣部 **伊多波商店** 電話 九百八十六番

函館區千代ヶ岱五十八番地

製革部 **伊多波製革所** 電話 千二百十四番

函館區地藏町五十一番地

作業部 伊多波製靴馬具 **製工場** 電話 九百八十六番

全

函館區千代ヶ岱五十番ノ一

伊多波 製靴 **工場** 電話 七十番

諸車及農具製造業

太田忠吉

函館區音羽町十四番地

西洋家具
室內裝飾品
製造販賣

官衙
諸會社
御用

長神永貞助

函館區末廣町
電話（一〇二四番）

土木
建築
請負業

鈴木仙藏

函館區谷地頭七十九番地
電話（四六四番 三七三番）

既設未設電話賣買
土地建物有價證券
金錢貸借仲立業

上加賀屋商店

函館區壽町十二番地
南部坂上ル
電話 九百五十九番

胃腸病小兒科
清野醫院
醫學得業士 清野誠一
龜田村內

函館魚商株式會社
函館區汐止町
電話（六一〇番）

江洲政所產
茶
函館區大黑町
近江屋茶舖
電話千〇十五番

辯護士
黒住成章
函館區諏訪町六番地
電話（二十九番）

辯護士
佐藤楢之丞
函館區相生町一〇二番地
電話（三六一番）

商號
鼻祖
伍
紙箱製造所
函館區惠比須町五十六番地

美術貴金屬裝飾品細工工場
煙管かんざし、寶石入指輪
茶道具其他一切
上
櫻井龍吉
函館區相生町交番向

外科一般

醫學士 三村陳就

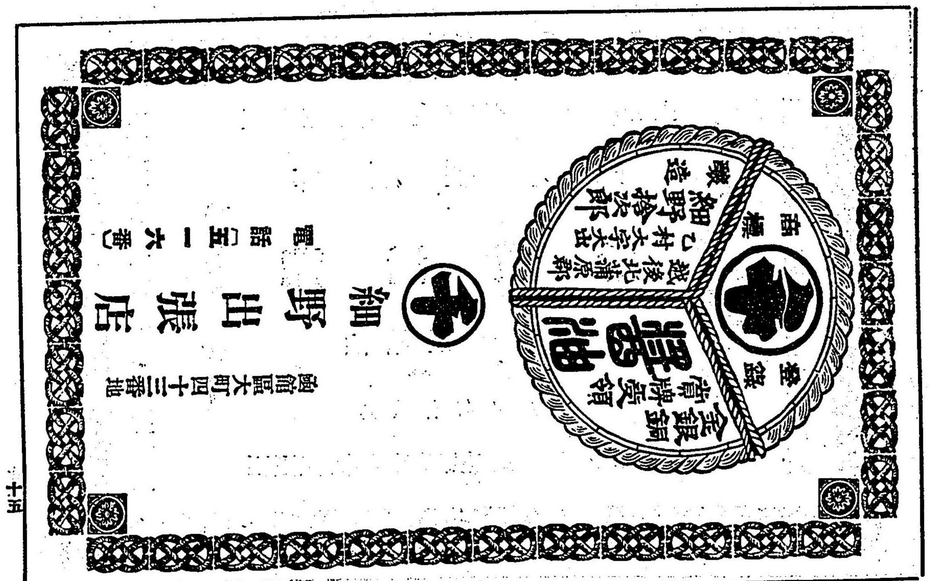
函館區青柳町十五番地
（淺利坂行當り）
電話（一二三五番）

十四

內科外科

錦織醫院

函館區大町十八番地
電話（八四六番）



印刷製本業

龍活版所

函館區音羽町

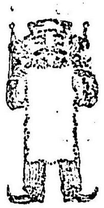
九善菅谷ノ通リ

婦人小間物

かもじ製造卸

紅榊原商店

函館區寶町二十七番地



函館區蓬萊町
東見
電話三〇一番

函館區鍛冶町
巴見
電話四五五番

會席御料理
勝見家
函館谷地頭町
電話七六三番

鳥御料理
みどり
函館區蓬萊町七番地
電話（六五八番）

函館遊廓
武藏野
外山きく
電話七六九番

函館遊廓
隆
伊勢樓
電話千百九十一番

明治四拾五年四月貳拾日印刷
明治四拾五年四月貳拾八日發行

不許復製

定價金四拾八錢

編纂者　芳川清三郎

發行者　菊地末吉
函館區西川町五番地

發行所　函館萬告舍
函館區惠比須町四十九番地

印刷人　外崎友太郎
函館區惠比須町四十九番地

印刷所　弘業館
函館區惠比須四十九番地
電話一二九四番

ルービ幌札

東京

澤

東京株式取引所仲買人
日本橋區濱町

澤商店

村上定吉
店主 森戸鉱右郎

函館區會所町九番地

函館出張所

電話九四五番

小樽區色内町畑二番地

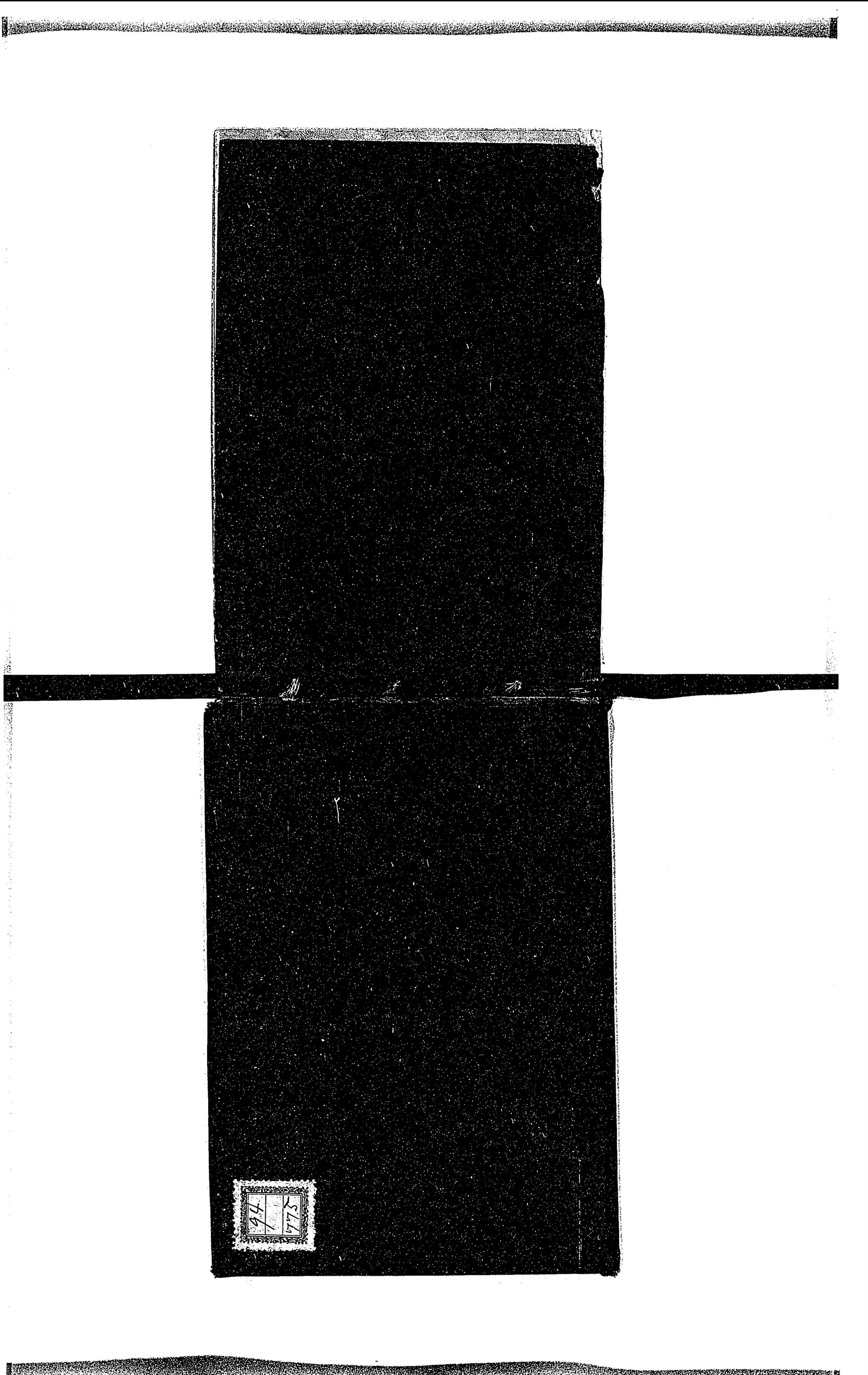
小樽出張所

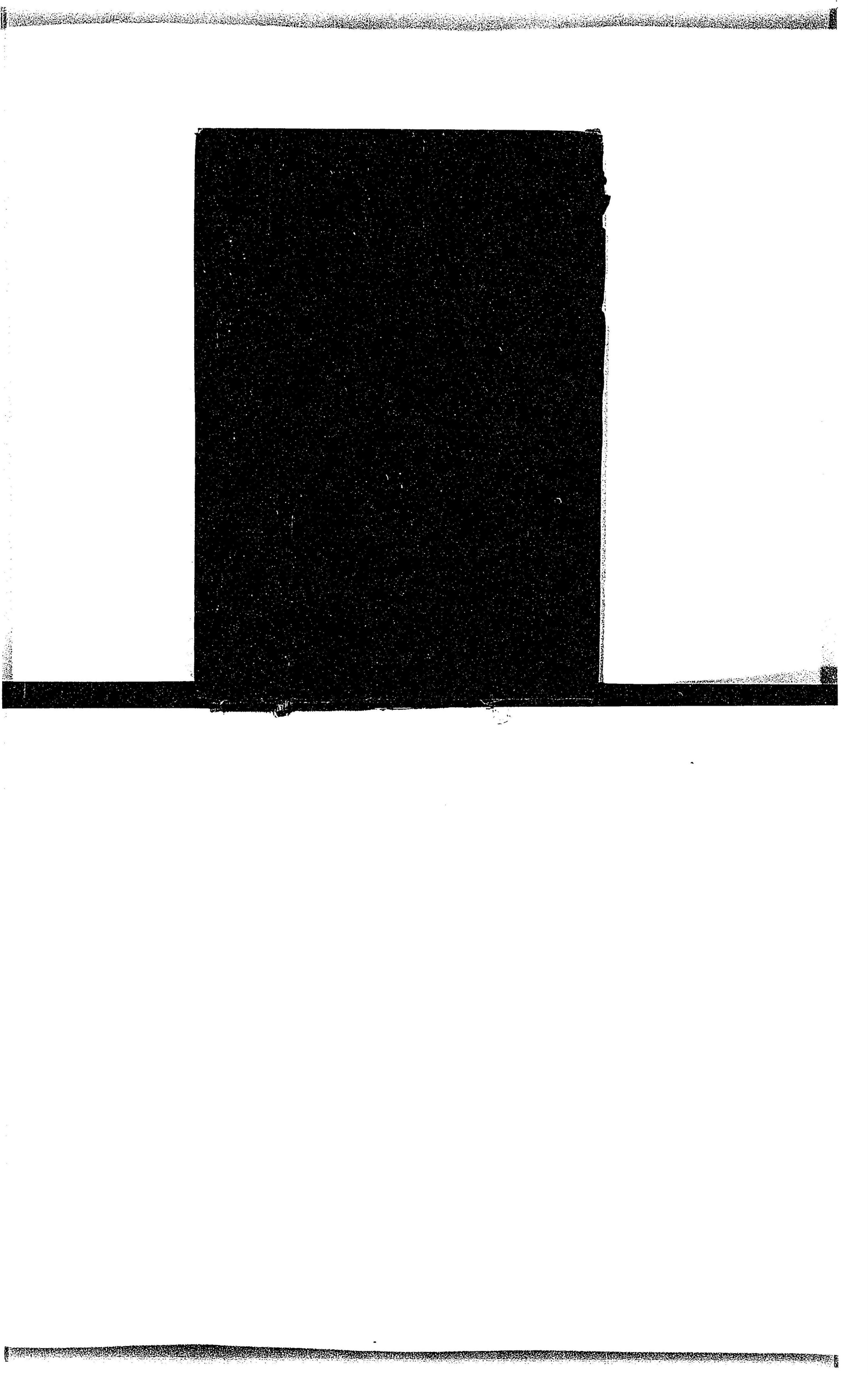
電話四四六番

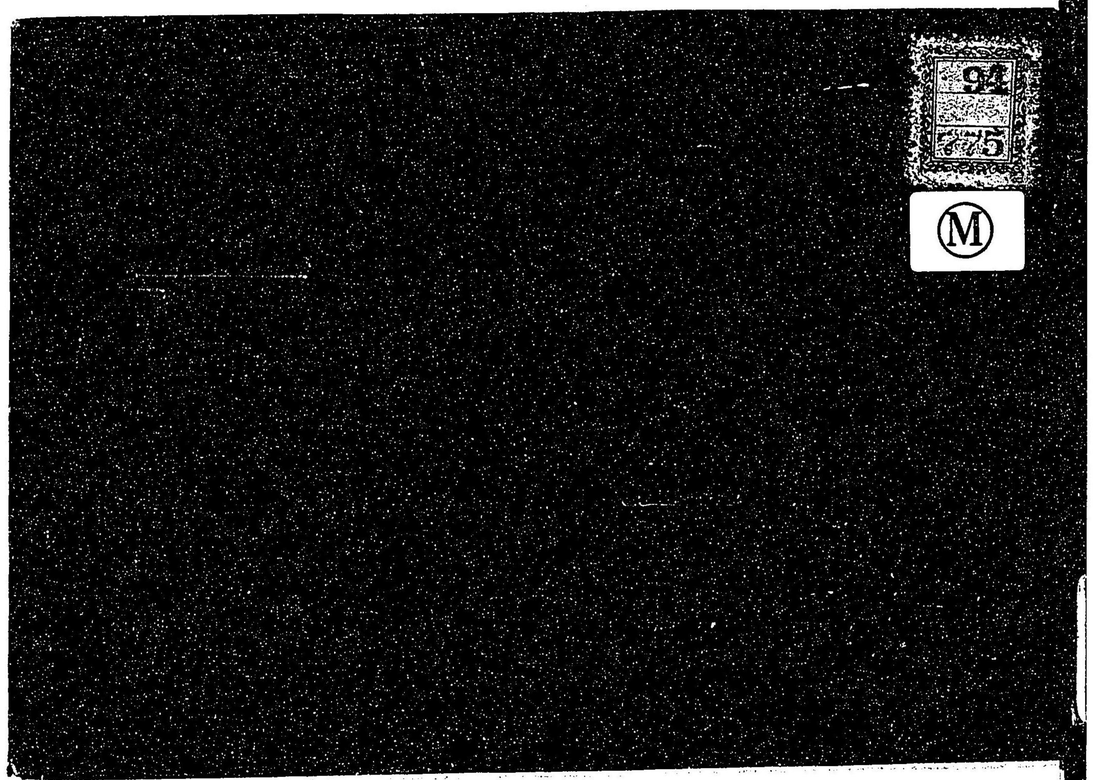
札幌區南二条東一丁目壱番地

札幌出張所

電話五四三番







023192-000-0

94-775

最近之函館

芳川　清三郎／編

M45

ADC-0029